外務省 No.809

No.

現地日本語教師の本邦研修記録

第 10 回

1989年8月

JICA LIBRARY
J 1160646 (4)

国際協力事業団

移 国
JR
88-3

1160646 (4)

現地日本語教師の本邦研修記録

第　10　回

１９８９年８月

国際協力事業団

FC 23
E5

92W96200

まえがき

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として、主に戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきております。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点等は今後共十分議論を尽す必要がありますが、優れた教師の育成が日本語教育の推進上必要欠くべからざることは論をまちません。

しかしながら、現地日本語学校での教師の置かれた研修環境は恵まれたものとは言えないのが現状であります。

そこで、これら教師を本邦に招き、外国語としての日本語教授法、その他の知識を習得せしめるとともに、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現状等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この研修の趣旨であります。

この昭和54年度より開始した現地日本語教師本邦研修（３ヶ月コース）は今回で10回目を、また昭和59年度から開始された６ヶ月コース（60年度から１年コースとなる）は今回で５回目を迎えました。

本誌には第10回日本語教師本邦研修３ヶ月コース20名、並びに第５回１年コース12名の総括報告と、研修日誌等が収録されております。

最後に、本研修の趣旨に対しご理解と、研修生へのあたたかいご指導を賜わった玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様に感謝の意を表する次第であります。

1989年８月

国際協力事業団
移住事業部長

目　　次

まえがき

写　真

研修総括報告書＜3ケ月コース＞

アルゼンティン	金城タカミ	1
〃	山城みづほ	2
カラダ	木場順子	3
コロンビア	坂本昌子	5
パラグァイ	菅原祐助	6
〃	鈴木紊子	8
ブラジル	屋　ふじえ	9
〃	山内和子	9
〃	小林文枝	10
〃	山本康子	11
〃	青木敏枝	12
〃	田辺野悦子	13
〃	池田洋子	14
〃	丸岡すみ子	16
〃	立石礼子	17
〃	渋谷紀子	19
ペルー	塩屋アンヘリカ	20
〃	金居美知男	21
ボリヴィア	国吉小百合	22
メキシコ	横山陽子	24

研修総括報告書＜1年コース＞

ブラジル	井上明楽ジューリョ	27
〃	丸岡義彦アウベルト	27
〃	土屋真弓エリーザ	28
〃	清水理恵カチア	29
〃	葛西順子ルシア	32
〃	木村直美	33
〃	関口ナツコ	35
アルゼンティン	宮脇郁代	36
ペルー	山内光子	38
パラグァイ	小田希美ジョランダ	39
ボリヴィア	出合美樹	40
カナダ	若林広美リンダ	42

研修日誌……44

研修内容……205

第10回現地日本語教師本邦研修日程表……206

昭和63年度研修生名簿……223

研修生一覧表……225

Aコース修了式

Bコース修了式

Bコース 研修課題 中間報告

Bコース 研修課題を発表する葛西順子ルシアさん

Aコース　茶道授業

Aコース　研修々了の懇親会

Bコース　ディズニーランド見学

A・Bコース　日本文化研究　鎌倉にて

Aコース研修総括報告書

期間：1988年９月21日～同年12月19日（３ヶ月コース）

アルゼンティン国ブエノスアイレス州
サルミエント日本学校
金　城　タカミ

1．当初、研修に期待したこと

・　教師としての資質向上
・　楽しい日本語授業のすすめ方
・　音声学の基礎及びその学び方
・　日々変貌する最先端技術その他日本の姿・事情を実際に見ること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　表現教育やレクリエーションを取り入れ、楽しい雰囲気の中で日本語教育をすすめていきたい。
・　現地の事情にあった系統的な教材作りに取りくみたい。
・　教師のあるべき姿を念頭に置き、資質向上を心がける。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　短期間の中で、先生達にも教えたいこと、知っておいて欲しい事が沢山あり、プログラム作りも苦心された事と思いますが、レクリエーションや音楽の授業をもっと取り入れて欲しかった。
・　次回はぜひ外国人日本語学校参観をプログラムに組んで欲しいと思います。
・　現地での日本語学校は親睦団体の傘下か私塾的なものが多いから、広い意味での学校運営、管理についての講義が欲しかった。
・　土曜日の午前中、レポート作成のみに終らず授業を組み入れてもいいのではないでしょうか。

4．所　　感

九月の末、青かったかえでの葉も玉川大学に通う毎に色を変え、やがて燃えるような紅葉になり、それが風でひらひらと白亜の玉大の坂道に舞落ちる様を眺めることができ、日本の自然の美しさに感嘆の連続でした。

この三ヶ月間、大変有意義な研修の機会を与えて下さった国際協力事業団の方々、センターで教えて下さった諸先生、そして玉川大学での諸先生方のあたたかい御指導を賜り、感謝に耐えません。そして、この研修を快適に受けられるよう一切の家事から解放して下さった食堂の方、お掃除の方々ありがとうございました。久し振りに学生気分に戻り、日本語教育に関して充実した日々をおくることができました。

日本語教育を勉強するには、非常に短い期間で、心残りの部分も沢山ありますが、現地で関わ

っていて、日頃から疑問に思っていた事や、自信がなかった事に対して、解決の糸口を見つけることができたのは大きな収穫でした。また、七ヶ国の他の国の、いろいろな事情、条件の下で日語教育に接していらっしゃる19名の先生方と知り合えた事もこの研修の成果の一つです。それから、この研修で学んだ事を与えられた環境設備の中で、いかに活用するかがこれからの私の課題でありますが、生半可な気持では教える事が出来ないことを念頭におき、資質向上に努力していきたいと思います。

アルゼンティン国ブエノスアイレス州
マルデルプラタ日本人学校
山 城　ほづみ

1．当初、研修に期待したこと

1．学校経営学

2．複式授業法

3．教授法

4．楽しい授業法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- カリキュラムとして　授業設計をまずしっかり組み
  指導技術をくふうし実践する
  指導を常に受けていく事
- 真剣な授業をしていかねばならない事を学んだので、私自身の成長をまず目標にする。
- 表現教育、視聴覚教育法をとり入れていく事。
- 日本語教育活動の為、一人でも多くの人に日本語を教える努力をする事。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

毎年の現地日本語教師本邦研修生の提言要望事項で、沢山の事が常時検討され、今回迄の研修になって来た事を思う時、大変な御苦労をされて来られた事と思います。JICAの皆々様の御苦労、玉川の先生方の御苦労、御指導に大変感謝し、提言要望を書く事は大変申しわけない事ですが、私が感じた事を書かせていただきます。

- 林伸一先生の授業内容は現地で教えている私達に大変役立ち、今後の授業には、最初から組んでいかれたらと思います。前回の方にも、そのような意見がありましたように思いますので、次回の方の為、再検討を。

  又、視聴覚教育、表現教育は回数も増やして、土曜日の午前中に組まれたらどうかと思いま

す。

・　一応は全員健康に異常なしで来られていますが、中間で一日、全員の身体検査を行なったらどうでしょうか、心理的に疲れがとんでしまうかもしれません。

・　日本に来たので、朝食はお金をとられてもなっとう、のり、うめぼし位出る朝食が欲しかった。（たまにでも良い）また、紙ナプキンも欲しいものです。

4．所　　感

早いもので、とうとう三ヶ月が経ってしまいました。

来た時は、研修に対して又、同期生の方との、同居生活という事で不安な思いで出発しましたが、JICAの職員の皆様、玉川大学の先生方、センターで教えて下さった先生方、そして19名の同期生の方々の真心のおつき合いで無事終了する事ができました。

本当に有りがとう御座居ました。

すばらしい人生の思い出となり楽しい三ヶ月でした。

楽しい授業、むずかしい授業と、私には新しい色々な事を一辺に教わり必死に努力してついていきました。

そして、結論として分かった事は、どのようにしたらすばらしい授業が出来るかという事を、色々な方法で教えて下さった事です。

力の無い私ですが、今回学んだ沢山の事を機会あるたびに人々に伝え、かつ日本語教師として一対一で子供達に対し、何かを残してあげられる私になりたい。

そして、未来の地、南米で価値ある人生を歩んでいきたいと思います。

本当に有りがとう御座居ました。

カナダ国アルバータ州テーバー
南アルバータ新移住者協会日本学校
木　場　順　子

1．当初、研修に期待したこと

・　外国語として日本語教授法
・　教材の研究
・　自己の学力向上
・　他の日本語学校状況の把握

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　玉川で学んだ、教師のあるべき姿を常に念頭に置いて、生徒に接し明るく活気のある学校づ

くりを目指したい。

・ 研修で得た知識を生かして、授業計画の改善をはかり、更に工夫していきたい。

・ 只単に日本語を教えるのではなく、その背景にある日本文化や日本人の心というものも子弟に伝承していきたい。

・ 現地の先生方にも研修で指導していただいたことを報告し、学校全体の向上に努めたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・ カナダは先進国ですが、戦時中の日本人排斥運動の歪みで、日本語教育は大分遅れています。これからもこういう研修制度への参加人員の増加をはかっていただきたいと思います。

・ センターでの授業は私達現地教師にとって直接関わりのあるものが多く、自分の知識向上に役立ちました。もう少し時間数を増やしてほしい授業もありました。

・ 玉川では、表現教育、折紙など私にとってはとても楽しみな授業の一つでした。中にはどうしても不得意で御指導いただいた講義がうまく活用できるかどうか心配な科目もありましたが、教育の奥深さを再認識することが出来、同時に人生勉強もさせていただきました。

天皇陛下、ご病気の為、自粛運動の高まる中、玉川の各行事が中止になった事は、楽しみにしていたたけに非常に残念でした。またやむを得ず休講になり、ポッカリ時間が空く時も、限られた時間なのでもったいないという気がしてなりませんでした。

4．所　感

この三ヶ月の間に掛け替えの無い様々な体験をすることが出来ました。今まで暗中模索の状態にいた日語教師として、また、個人として一歩前進したのではないかと自負しております。

この研修に参加する機会を与えて下さった事業団の方々、また労を惜しまずに私達の為に一生懸命にお世話して下さった江崎さんを始め移住センターの職員の皆様方、時々、的外れな返答をしたりする私達に忍耐強く最後まで丁寧にご指導下さった諸先生方、心より感謝致しております。

玉川の幼稚部・小学部研修、出身地での研修など、生の授業参観でも授業の運び、生徒への対応の仕方etc.考えさせられることが多々ありました。

カナダから一人ということで最初はそのプレッシャーに押しつぶされそうでしたが、教師として、また人生の上でも先輩の他の中南米の先生方に支えられ、無事研修を終えることが出きましたことを嬉しく思います。

また、電車の乗り方一つにしても、いろいろ教えていただいて皆さんの御蔭で思ったよりずっと早くここでの生活に慣れることが出来ました。Bコースの皆さん本当に有難う。

只これから先、多分一生お会いすることも無いであろう方々もいらっしゃると思うと寂しい気持ちで一杯です。

カナダの殺風景な大地で、まだ、日語教師としての道のりは長いですが、皆様と共に学んだ

三ヶ月を決して忘れることは無いでしょう。

この貴重な研修で得た知識、経験を新しい基盤として、現地の日本語教育活動の向上に努めたいと思います。

最後にこれからも、このような本邦研修制度により多くの先生方が参加され、益々発展していくことを願って止みません。

コロンビア国バイジェ県パルミラ市
日本人協会付属ひかり園
坂　本　昌　子

1．当初、研修に期待したこと

日本語学校が創立されましてから10年間教師としてお手伝いさせていただきましたけれども、何時も自己の無力さを感じ、人に教えることのむずかしさにいきずまりまして、一時休職していましたやさきのこの度の本邦研修のお話に喜んで参りました事は

1）自己の資質向上

2）教師としての基本的な心構と指導法

3）復々式授業をどのようにしたらいいか

4）実際にこの目でこの体で日本文化・日本事情の再認識

5）玉川学園の全人教育とはどんなものか？

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

学歴も浅く、ましてこの年代での私にとって、この研修は毎日が緊張の連続でした。この度の研修にて教育とはどうゆうものか？教育とはどうあるべきか？と言う事を初めて教えていただきました。

玉川学園、移住センター、それに所外研修並びに出身地研修で学びました事を基本といたしまして日本語教育に専念し、玉川の全人教育のお教えの三育併進（知育・徳育・体育）をいつも考えさしていただき、自分が生徒にとって何よりの教材であると言う教えを胸に日系人子弟、二世・三世のため、又後継者養成のため一人でも多くの研修生を送り、日本文化や日本事情の知識を高めさせるために努力したいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1）本邦研修は毎年続けて下さい、二度ない人生経験になりました。

2）研修期間は9月初旬から11月下旬頃までがいいと思いました。

3）カリキュラムの中に体育・レクリエーション・音楽があったら良いと思いました。

4) 玉川での体育祭とコスモス祭が参観出来ず残念でした。

5) センターでの部屋が少しせまく四人部屋の人はおきのどくでした。

4. 所　感

・ 長いようで短かった三ヶ月が過ぎました。国際協力事業団、海外移住センターの所先生方、玉川学園の諸先生方に深く感謝致します。

・ 日本語学校ひかり園は今年で創立20年です。初めの10年間は「母国語をおしえる」でよかったのですが、今では「外国語の中の日本語」を教えるようになりました。

私は一時休職させていただいていましたが、若い後継者がいない状態でして、この度の研修に日系人協会からの推せんいただき、自己の資質向上のために、また日系人子弟の日語教育に役たてばと思い参加させていただきました。でも私には一部理解に苦しむ点もありましたが頑張ったつもりです。

これを企画していただいた国際協力事業団をはじめ、いつも親身になって御世話していただきました海外移住センターの各先生方並びにセンターの人々に深く感謝致しております。又、私達を受け入れて下さった玉川学園、季節の花が咲く自然環境の中での講義や、全人教育、日本語教授法等意義のある勉強をさしていただきました。人間性豊かな日系人子弟育成のために努力するつもりです。又各国の先生方ともお友達になり、皆さんの経験豊かな教育の実践を目の前にして研修出来た事をうれしく思っています。

御指導や御世話いただきましてありがとうございました。

パラグアイ国アルトパラナ県イグアス移住地
イグアス日本語学校
菅　原　祐　助

1. 当初、研修に期待したこと

1. 教師の資質の向上
2. 教育原理の習得
3. 日本文化の再確認
4. 教師としての基本的な心構えについて
5. 教育機関の見学と授業参観

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・ 全人教育を理念とした人格形成を目標に実践して行きたい。

・ イグアス移住地には当初公共用地に予定していた未分譲ロッテがいくつかある。このロッテ

をＪＩＣＡから譲り受け、玉川のような全人教育をモットーにした学園を造り、国家の百年の計にしたい。

３．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

本研修生の大幅増員

４．所　感

この研修レポートを記す段階になると、先月末の玉大生のコンサート「第九」が甦ってきた。終楽章「歓喜に寄す」である。

国を出る時「しっかりやって来いよ！」と職場の同僚らに励まされ、壮行してくれたことが昨日のように思えてならない。

今、三ヶ月の研修を終える時に数々の思いが走馬灯のように追憶され感慨も一入である。

玉川学園では人間性豊かな先生方にふれることができ、教育者として如何にあるべきかという教師の姿勢に深い感銘を覚えた。豊かな自然の中には広大なキャンパスがあり、石碑、銅像等が至る所に見受けられた。行き届いた草花も整然と植えられている。今もなおご創始、小原国芳先生の精神が脈々と生き続けていた。

関西旅行では古都京都奈良の寺々の見学であった。

色鮮やかに紅葉した木々が寺々と調和して、静寂の中の佇まいの美しさに感動した。偉大な文化を後世に遺したいにしえびと（古人）に思いを馳せらせたものである。

東京見学は終日雨にうたれた日だったが、世界の東京に成長した現在の日本の縮図を垣間見ることができた。日本古来の文化を大切に保存継承しつつ現代に力強く生きる日本のダイナミックな躍動の姿だった。

貴重な体験や、感動したことはまだ沢山あるが、広く浅く方向づけを頂いているので、国へ帰ってゆっくり反すうし、咀しゃくして、自分のものにしてから子供たちに分けてやりたいと思う。

この機会をお与え下さったＪＩＣＡ、玉川学園の関係者の方々に心から感謝申し上げます。そして、今年で十回を重ねるこの制度が一つの節目を新たに、今後共永く継続され益々内容豊かな充実したものになりますよう祈念し、所感と致します。

パラグアイ国イタプア県ピラポ移住地
ピラポ第3日本語学校
鈴　木　峯　子

1．当初、研修に期待したこと

・ 現代の日本語教授法の中からどれがパラグアイ国で適切に使えるか研修すること。
・ 現代の日本文化の現状を知ること。
・ 全人教育とは何か深く学びたい。
・ 低学年の指導法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・ 日本の良さをパ国人・日系人にさらにより多く伝えたい。
・ 3ヶ月間学ばせていただいた事をしっかり心にとめ、私自身努力して指導していきたい。
・ 腹話術を今後研究していきたい。
・ 全人教育論をこれから年月をかけて指導して行きたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・ 日本人の心として茶道・華道・書道を教えていただきありがたく思っています。
・ 授業参観やレクリェーションの指導をもっととり入れてほしかった。
・ 体育祭や音楽祭を見学できなかったのが残念でした。
・ 対照言語研究の講義を多くしてほしかった。
・ 折り紙実習ではもっとやさしく誰でも折れるものを指導してほしいと思いました。
・ 研修期間中出欠簿をきちんとつけておけば良かったと思います。

4．所　　感

・ 研修期間中何事もなく生活できた事に対してセンターの皆様、玉川の諸先生方又、陰で支えてくれた皆様方に対して本当に感謝致します。
・ 3ヶ月間あっという間に過ぎたという感じで、もっと真剣に勉強すれば良かったと反省しております。
・ 後期に入って集中的にレクリエーションや表現教育の講義はとても参考になりました。
・ この研修で得た数々の事をパ国に帰ってから長い年月をかけて伝えたいと考えております。本当にありがとうございました。

ブラジル国ブラジリア連邦区
インクラ日本語学校
星　　ふじえ

1．当初、研修に期待したこと

・　日系人の為になる日本語教授法
・　会話指導の進め方
・　音楽・レクリエーション指導
・　日本文化・日本人の心

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

教師として経験の浅い私です。この三ヶ月に学んだ研修授業、必死でした。これをブラジルに持って帰り、自分で自信を持って日本語教育指導をし、楽しくやりがいのある日本語学校になるよう努力していきたいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　今年の研修日程表の組立方はいいと思います。
・　ただし、低学年で習う音楽指導をもっとしてほしいと思います。

4．所　　感

教師として経験の浅い私です。皆さんについて行けるかと不安でした。この三ヶ月学んだ研修内容又、センターの集団生活で学んだいろいろなこと、本当に大きな収穫でした。

授業指導して下さった先生方（講師）有難うございました。そしてたくさん頂いた教材これを読み直し改めて勉強して行きたいと思っています。

最後にこの三ヶ月間ＪＩＣＡ講師、センターの皆様にお世話になった事を心から感謝致します。

ブラジル国サンパウロ州
松　柏　学　園
山　内　和　子

1．当初、研修に期待したこと

・　幼児期からのバイリンガル教育についての可能性、そして、その教授法
・　中南米で実践できる全人教育

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

「言葉が人間をつくる」

「人間関係＝言葉」

この言葉がもつ力、その大切さ、大事さを学び、現在、海外で盛んになっている日本語教育を日本語としてではなく、日本の文化のすべてをも含めた幼児期からのバイリンガル教育に貢献したいと思っています。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　各教師の研修目的が異なるため、ある程度の選択科目制度を取り入れていただきたく思います。

・　中南米教師は外国人対象なので、現実にあった授業参観をご検討していただきたく、お願いいたします。

4．所　感

語学教育とは単なる言葉の押し売りではなく、その言葉の中に含まれている文化の学習であります。「百聞は一見に如かず」ということを玉川でも学びましたが、実際に目で見て肌で感じたことでなければ生徒にも実感をもって伝えることはできません。

この度、この研修に参加させていただき実際に日本の文化を見て感じることができ、まさしく「百聞は一見に如かず」です。心から感謝いたしております。

事業団の皆様をはじめ玉川学園の皆様ほんとうにありがとうございました。

ブラジル国サンパウロ州

サンターナ日本語学校

小　林　文　枝

1．当初、研修に期待したこと

愛する生徒各自1人1人に豊かな美しい日本語を教えようと努力すればする程、問題の多い30年間の教師生活の中で、忘れかけた日本文化、日本の現状、いじめの理由、玉川の全人教育、人間として生きて行くために最も必要とするもの、外国語としての日本語教育の特色、バイリンガルにおける日本語との同時性、児童心理学、幼児と家庭関係と教師の立場等を体得又習得したいと思います。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

音声楽、言語学、個別指導法いろいろ多数の方法を利用したい。幼児は私の鏡なのだ、もう少

し各自の心の深くまでのぞける私になり、私の力で一人でも多くの日系人に日本語を通してブラジルの為に役立つ国際人になれるような人間作り、人格形成の一役となりたい。幼児に知識のみでなく、幼児が人間として成長して行くのに大切な力を借してやれるように一生懸命勉強し、日本人の持つ優れた何かと、ブラジルの良いところをのばせる頑張る子供、心のやさしい元気な子供の育成の一役となるよう教育に対する姿勢を再度考え頑張ります。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今後益々日本とブラジルの交流は永続的に深まると思う。それと共に日本語教育も世界の注目のまととなるであろう。若い多数の日本語教師を育成し、永続的に続けられる教師への保証、又現代の日本事情の全面的うつりかわりについてくわしいデーターがほしいです。健康に気をつける年の人が多いから、研修2ヶ月目に皆んな診察してほしかった。半分ぐらいは少々病気の人がいた。

4．所　　感

3ヶ月間の研修も無事終えほんとうに感無量です。副団長、会計として少しでも何かの形で皆さんの役に立てばと思いましたが、皆さんの協力により全部スムーズに行き皆さんに感謝しています。私に取りこの3ヶ月間の団体研修は多数の知識を習得したのみでなく、人生に取り又一歩勉強出来たことに感謝しています。多数の人とのふれあいは心と笑顔でというように、全世界が一つになれるということ、友情、人との出合いの大切なこと、団体生活の中での生き方を知りました。最後に研修の為、暖かい心を配って御世話してくださった移住センター、玉川大学、事業団本部にも深く感謝致します。莫大な費用をかけていただき、研修で3ヶ月間学んだことを日本のかけ橋（国際社会）の1人として一生懸命頑張って行く決心です。

良い時に素晴らしいチャンスを与えていただきほんとうに感謝致し、頑張ります。

ブラジル国サンパウロ州
イタペッチ日本語学校
山　本　康　子

1．当初、研修に期待したこと

ア．教師としての基礎教育を受けたい

イ．カリキュラム作成及び指導技術の習得

ウ．日本の現状を知る

エ．自身の資質をたかめる

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

与えられた環境の中で、それぞれの生徒にとって、何が必要であるかを見極められるよう努力して、教えてゆきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

ア．研修期間について

6ヶ月コースや、1年コースも設けていただけないかと思う。

イ．これからも、日本語教師Bコースや子弟研修生、開発青年、その他の研修生が交流できる場を設けていただけたらと思う。

4．所　感

長年研修を受けたいと思っていたことが実現し、こんなに嬉しいことはない。

日本に来て3ヶ月、いろいろな方々との出会いの中で、ずいぶん多くの事を学ばせていただいた。これからも教師として、それらを指針とし頑張っていこうと思う。

この研修のために、綿密な計画を立て、事細かに実行して下さった国際協力事業団の方々、講師の先生方、大学学園の先生方、地方研修のためにご協力下さった方々、日本や各国の関係者の方々に感謝している。

ブラジル国サンパウロ州
ペンニャ日本語学校
青　木　敏　枝

1．当初、研修に期待したこと

日本語教師として、自信を持って指導する事が出来るような日本語教育教授法の習得

低学年対象の指導技術法、特に全然日本語を話さない児童に言語教育・情操教育を習得させるため（レクリエーション表現教育・音楽等）の実技習得

日本現状の知識・日本文化・習慣の再認識

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

研修で学んだ多くの事をもう一度復習し、更に深く研究してこれからの指導に自信を持ちたい。

授業内容の改善に努める。

今回の研究を生かして、各地域社会に貢献出来得る人材養成に努める。

日伯文化普及のため、出来るだけ協力し精進するつもりです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

各科目の時間割も内容も良かったと思いますが、短時間で終わった科目をもう少し検討していただきたい。実技指導時間（音楽・レクリエーション等）を、もう少し増やしていただきたい。

茶道のお手前が一度しか出来なかった事、一緒に三人ずつ位練習出来るような方法を取ってほしい。

4．所　感

今回の研修に、選考の厳しかったサンパウロで選ばれて参加出来ました事には感謝感激でしたが、その反面不安と責任を感じました。

三ヶ月の研修に望んで、玉川大学の講義、センターの授業内容も良くて、役に立つ事ばかりでした。

センターのレクリエーションの時間は一日では足りなかった事、日本語学校の研修が一度も出来なかった事、玉川学園の行事（音楽祭・コスモス祭・体育祭等）が中止された事は残念でした。

長野先生の講義を受けたのは3回目ですが、学習指導案、授業設計は今回充分に理解出来ました。早速利用して、現地の複式授業に適応する指導案を作り実行したいと思います。

今までの授業の進め方を反省しています。

郷里研修は事業団の御配慮により、スムーズに授業参観する事が出来、実際に授業やクラブ活動等を見聞して、新しい知識を得る事が出来ました。

研修旅行もちょうど良い時期を選んでくださって、素晴らしい秋の紅葉を楽しみ、座禅は精神修養になりました。この研修を企画実施して下さった国際協力事業団、心温かく御指導くださった玉川大学の諸先生方、親切にお世話していただいた移住センターの皆様に心より感謝致します。

ブラジル国サンタ・カタリーナ州
カンポ・ベロー・ド・スール日本語校
田辺野　悦　子

1．当初、研修に期待したこと

・　幼児教育の指導法

・　身体障害児及び言語障害児の指導法、手話等

夜の自由時間に個人的に勉強しようかと当初計画を持って来ました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　現状の先生方との研究会（年二回あり）で本邦計画を受けた先生方との繋がりの絆を深め、そしてまだ本邦研修を受けていない方達に勉強したことを伝達し、本邦研修を受けるよう進言

します。

・　生徒達が喜んで楽しく日本語学習が出来るよう、常に研究し前向きの姿勢で自然をとり入れた学習方法へと進めていくようにしたいと考えています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　研修生人員を増やしていただきたい。

　サンパウロは競争率が激しく選出されるまで四年かかり、幸運にも今年参加することが出来ましたが、時間切れで（年令制限）書類提出出来ない先生方が多勢おります。

・　四人部屋割制を考えて下さい。

・　実技指導時間を増やしていただきたい。（音楽・レクリエーション等）

4．所　　感

・　ＪＩＣＡ移住センター、玉川大学の先生方、職員の皆様いろいろな方達の力によって私はささえられ研修に打ちこむ事が出来、感謝に堪えません。ありがとうございました。

・　日本に当着当初は日本の人達の早口と新語（カタカナ語）にとまどい、又買物などはついドル換算するので物価がすごく高く感じられ、日本での生活に不安を感じました。

・　茶道－人数が多いため順番が廻らずお手前一度しか出来なかったことは残念に思います。お弟子さんの先生にでも教えていただいて、二グループ位にすると廻り方も早く良かったのではないかと思いました。

・　石井先生のレクリエーション指導

　もう二・三回授業があったら良いと思いました。

・　全員無事帰国出来ます事を何より感謝します。

ブラジル国パラー州

汎アマゾニア日伯協会付属ベレン日本学校

池　田　洋　子

1．当初、研修に期待したこと

・　外国語としての日本語指導技術を学ぶ。

・　学級経営方法を学ぶ。

・　複式授業の指導方法を学ぶ。

・　日本文化を再認識する。

・　今回本邦研修を受けるにあたって７年間の日本語教師生活をふりかえり反省する。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回の日本語本邦研修で学んだことを、現地に帰りあらゆる機会を通して、現地の先生方に情報と資料を提供し協力していきたい。

また、今回研修を受けた科目で、実践できるものを精選する必要があると思うので、復習の意味でじっくりもう一度勉強したいと思っている。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・ 玉川大学、移住センターでの講義科目を精選してほしいです。

・ 講義科目として、現地で即実践にむすびつく科目を選んでほしい。そのためにもっと現地の情報をつかんでほしいと思います。

◎ センターに対する要望

・ 食事を改善してほしいと思います。

・ 野菜を多く取り入れてほしいです。

・ できるならば二人部屋ぐらいに統一してほしいです。

4．所　感

私にとっては20年振りの日本でした。

この研修を受けるにあたって、私は日本文化再認識と考え研修を受けにまいりました。20歳歳を取ってみて、どう考えが変ったか、物の見方が変ったか、自分を新しく知る意味でよい機会だと考えました。また、私の７年間の日本語教師生活をみつめ直す意味でもこの研修を受けて本当によかったと思っております。

特に玉川大学では、よい環境でよい先生方に恵まれ、よい教えを受けている生徒達を目のあたりにして、現在の日本を象徴しているかのように思えました。反面、色々な心の病気をかかえている人達が多いのも、みのがせない現状ではないのでしょうか。

恵まれ玉川大学を見てこのように考えました。

また、出身地研修ではすばらしい思い出ができました。

複式授業の研修を受けたく思って僻地の学校を選び、島根県波多小学校へ行ました。そこで５、６年生の国語の複式授業を見せていただき、教職歴10年の男の先生でしたが、てきぱきとポイントを押えた指導、１人１人の生徒の能力を把握して、生徒も授業もとても大切にしていらっしゃる、教師としての人柄が表われたすばらしい授業を見せてもらえて感動しました。

また、３ヶ月間、私達20名、たいした病気もなく無事研修を修了できましたことを本当にうれしく思います。

最後にセンターの職員の皆様いろいろお世話になりまして、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

ブラジル国アマゾナス州
西武アマゾニア日伯協会日本語学校
丸　岡　すみ子

1．当初、研修に期待したこと

1．本来教育とは何か、教育の根本理念について
（特に心の豊かさ、思いやりという点に触れる問題・話題）

2．玉川の全人教育とは何か

3．教師としての資質向上

4．外国語としての日本語教育に関する知識・技術の学習

5．歌・リズムゲーム・折り紙当や視聴覚教材に関する学習

6．日本の文化に触れること、日本の現状を見聞すること

7．出身地研修の体験。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

安請合いで始めた日本語教師としての生活も来年で10年目になるが、これを機に改めて自分自身を見つめ直し、教師として、人間として向上できるよう努めてゆきたい。常に本来の教育とは何か、生徒一人一人の幸福とは何かを考えながら歩み、歩みながら考えてゆきたい。

また、今後、日本語教師としての最低限の知識・教養・技術の習得と向上に努力したい。

具体的な問題として学校内で学校独自の学習指導要領（校内での教え方・表記等の統一を含めて）の作成を教師間で検討し、実現できるようにしたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．現地にいる教師にとって、常につきまとう不安は「これで良いのか。」それを確めたくとも確められないことでは？この制度によってそれが全て解決されるわけではないが、様々なヒントを与えられ、励みになるので、今後も是非続けて頂きたい。

2．今回、自費で子供を連れて来て、実家に預けて研修参加をした教師がいますが、こういった前例は特に記録に残して頂き、小さな子供の育児中でありながらも現地で活動する若い教師が、より好条件で参加できるような配慮や改善を望みます。（5年前、私も自費で子供を連れて来ることを申し出ましたが、認められず、研修に参加できませんでした。）

3．日本語を外国語として教えている学校の見学を予定に組み込んで頂けたら良いのですが。

4．所　　感

この度は、本邦研修に参加させて頂き誠に有難うございました。

3ヶ月間担当者として常にお骨折り下さいました江崎さんを始め、移住センターの皆様や講師

の先生方、そして玉川学園の皆様に、大変御世話になりましたことを心より感謝致します。

３ヶ月の研修のスケジュールは単に机に向かっての勉強だけでなく、様々な見学・視察や茶道、華道、書道も含まれており、大変素晴しいものでした。出身地研修も順調に行なえ、嬉しく思っております。

授業では、林先生の「意味」のような授業は大変わかりやすく興味深く、もっと回数が多くても良かったと思います。また、柿本先生の「日本の広告」は現代日本の文化の一端を知る上で大変興味深かったと共に、言葉に対する感覚というものを改めて考えさせられ良い授業でした。

私個人にとりまして、下駄の新聞広告のコピーコンテストで賞品の下駄を頂けたことも大変嬉しく一生の思い出となります。斎藤先生の授業も素晴しく「教材研究」「音声」などは、特に良かったと思います。先生の授業を通して「勉強のしかた」その要点をずいぶんと教えて頂けたと思います。丸山先生の「日本事情」は私の一番好きな授業でした。先生の作って下さった資料、そして年表は大切に活用してゆきたいと思います。坂根先生の「文字・表記」では、日本語の素晴しさを再確認すると共に、文字・表記の実際の指導に大きな参考を与えて頂け、不安だった点の幾つかが解消されました。石井先生の「レクリェーション指導」は研修の始めの頃から何回かあってほしかった授業です。大変貴重な授業でした。

玉川でも、長野先生を始め多くの先生方に熱心に御指導頂きました。「腹話術実習」「折り紙実習」「幼児言語論」等、実技も多く含まれ満足致しました。いつも笑顔一杯の金平先生の「短歌論」、石橋先生の勢いあふれる「全人教育」も忘れられないでしょう。そして、何と言っても方先生の「表現教育」は素晴しかったです。私も方先生のような教師になりたい！
つくづくそう思いました。それが今回の研修で、私にとって最大の収穫です。

また、一緒に３ヶ月間研修生活を共にしましたＡコース、Ｂコースの皆さん、有難うございました。現代日本の若者のデタラメさ加減を見聞するにつけ、なんとＢコースの人達はしっかりしているのだろうといつも感心していました。一人一人が自分の言葉で自分の意見を言え、愛情豊かで朗らかなＢコースの皆さんのように、私共の教え子も育ってほしいと願っています。
（勿論日本にも素晴しい若者が大勢いると思いますが）

今回関わりのあった全ての方々の御幸福をお祈りし、御礼を申し上げます。

ブラジル国バイヤ州
ウナ日本語学校
立 石 礼 子

１．当初、研修に期待したこと
複式授業の進め方
会話指導法

教材研究
外国語としての日本語教授法
外国人向けの日本語学校見学研修

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回玉川、センターで学んだことを土台として、身近にある材料で子供達と共に教材を研究し、日本語の勉強を進めて行きたいと思っています。

生徒達にとって話しやすい友だち風の先生でありたい。

日本語学校の生徒たちに自分で見た日本文化、日本の心を伝え、今後の勉強のはげみにしたいと思います。

莫大な研修費用をかけて勉強させていただいたことを無にしないよう、より一層日本語教育にはげみ、二～三世の人たちを日本に近づきやすくするために力をそそぎたいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・ 現地日本語教師にとって有意義な研修ですので今後も続けていただきたい。3ヶ月間の本邦研修期間は多くも少なくもないちょうどよい日数だと思います。もう少し早い時期がよいと思います。
・ スケジュールの中に外国語学校見学もとり入れていただけたらと思います。
・ 音楽の小宮先生、意味論の林先生、日本語学の上原先生、レクリェーションの石井先生の授業時間はもっとふやしていただきたい授業でした。所外研修、出身地研修ではいろいろな事を学びました。これからもぜひ続けていただきたいです。
・ 「むりに行けと言われて来た」という先生がおりびっくりしました。本邦研修を望む現地の日本語教師はたくさんおりますのでもう少し慎重に人選をお願いします。
・ 日本語学校の先生ということをつねに意識して、はめをはずさない行動をとってもらうように、関係者の方々と話しをされる時などもう少し自分の態度に気をつけてほしい。
　家族との会話風ではとても醜く聞きにくいので注意してほしい。

4．所　　感

小学校中退でブラジルに渡り、日本国語の基礎を勉強していない私は、本邦研修のお話があった時たいへんまよいました。

大学の先生かたの講義について行けるだろうかと、研修が始まりましてやはり、私にはたいへんむずかしくて1日のおさらいをして寝るのが毎晩2時から3時でした。友だちは皆、早くやすむのにとさみしくさえ思いました。でも、研修に参加させていただいて本当によかったと、この研修制度を企画して下さった国際協力事業団に深く感謝致します。

上原先生の授業に私はたいへん勇気づけられました。始めはチンプンカンプンだった斉藤先生

の授業、長野先生の授業、はじめて聞く「全人教育」みなすばらしい教えでした。わかりはじめておもしろみが出て来ましたらもう帰る日になっていました。

「人間らしい個性と感性を育てる」「進みつつある教師のみ人を教うる権利あり」などたくさんのすばらしい教え、ありがとうございました。

天皇陛下ご病気のため、玉川でのコスモス祭、音楽祭が中止されたことはたいへん残念でした。

出身地研修では五校見学しました。各学校の実態がちがうこと、先生方が根気よく生徒たちと接しておられ、見習うことばかりでした。無事研修を続ける事が出きまして、ホット安心できましたのもみな国際協力事業団本部並びに海外移住センターの皆様、玉川学園の諸先生方の細かい御配慮があったからこそと心から感謝とお礼を申し上げます。

江崎様には、いろいろと細かい所に気を配っていただいたり、励ましていただいたり、たいへん力をつけていただきありがとうございました。

国に帰ってもっともっと日本語教育に力を注ぐことを約束して、私のお礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

ブラジル国ミナス・ジェライス州
北ミナス日伯文化協会日本語学校
渋　谷　紀　子

1．当初、研修に期待したこと

・　今の日本社会をこの目で見て確かめておきたい。
・　せっかく与えられたチャンスなので、「何でも学ぼう」精神できました。
・　日本語教授校の現場を訪ねたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　研修で得たもの、いただいた教材、自分で求めた教材を使って、より充実した授業にしてゆきたいが、あまり気負うことなく今迄通りの自分でありたいと思う。教える前に教わりながらの授業、生徒と一緒の授業を続けてゆこうと思っております。
・　リオ管内四州合同研修会で教わったことの一部を発表したい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

実際に外国人に日本語を教えている先生の授業をもっとふやしてほしい、又そのような授業を参観し、話し合うチャンスが必要ではなかったか。又これからの授業にはどうしても原地のことばが必要だと思うので、スペイン語ポルトガル語の基礎をおしえてほしい。

センターでの生活がもし個室であったら、もっと別なすごし方（例えば、ゆっくり勉強をする

こと）が出来たのではないかと思います。

4．所　感

三ヶ月このめまぐるしい日本社会に生活し、ブラジルの良さも悪さもわずかですが外からみることが出来ました。

「生涯学べ」を胸にきざみ、気負うことなく現地の人達に日本語を教え（教わりながら）日本と云う国をもっと知ってもらい、心豊かな楽しいブラジル生活を続けてゆきたい。

※　週一度とは云え生徒達と接することの出来る幸せを神に感謝しております。最後になりましたがセンターの皆様には大変お世話になりました。

ありがとうございました。

※　センターでの研修生活と一緒に京都に始まる旅行、特に鎌倉の旅行は忘れ得ぬ想い出となりました。今後の生活にどう生かすか……。

ペルー国リマ市
ペルー日系人協会文化部日本語講習会
塩屋アンヘリカ

1．当初、研修に期待したこと

a）教授法（作文の作成、会話の実習、試験作成方法と採点の仕方）

b）文法（助詞、形容詞、動詞）の指導方法

c）日本文化見学

d）日本語を教えている学校の見学

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　受けた研修内容をペルーに持ち帰って、日本語教師に伝え、日本語普及に努めたい。

・　日本文化を通じて日本の良さを伝えたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　この三ヶ月という短い期間にもかかわらず、良く計画され十分過ぎるほどの内容でした。

・　研修旅行と出身地研修は学習の継続感がうすれるから二期に分けた方が良いと思います。

・　茶道、華道、書道は日本文化を実習するのにとても良かった。

・　日本語を教えている学校を一度でも見たかった。

4．所　　感

この度ＪＩＣＡの研修に参加させていただいた事を心からありがたく思っています。

気候的には日本で一番良いはずでしたが、残念ながら、今年は来日の日から慣れない毎日の雨で大変でしたが、期待していた紅葉を始めて見た時は絵や話で聞いていたより、ずっと美しかったので感激して、つい落ちているもみじの葉を拾い、ペルーの家族に見せたいなあと思いました。

玉川学園、センターの諸先生方の細かい御配慮の下で、日本語文化論、意味、日本事情、文法、文字、表記など、国へ帰ってからとても役立つと思います。

二世の私達二名は、北海道へ行かせてもらいましたおかげで、本州とは違う広々とした日本、又南米で見られない雪景色、－13℃の寒さの体験をさせていただきました。

この三ヶ月、海外移住センターの方々に、到着以来帰る時まで親身にお世話になり感動しています。

19名の仲間の皆様にもいろいろと教えていただき、団体生活の楽しさ難かしさを味わう事ができてありがたく思っています。

ペルー国リマ市
ペルー日系人協会文化部日本語講習会
金　居　美知男

1．当初、研修に期待したこと

1．教師としての質的向上

2．日本語を外国語としての教授法（対訳、直接、混合等）

3．会話の指導法

4．目的設定後のカリキュラムの組み立て方

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

宇宙の銀河系は24億個の星の集団を１単位として、無限に広がっています。地球は水、金、地、火、木、土、天、海、冥の太陽を巡る９つの中の一惑星にすぎず、そんな地球の中で日本か日本人がという時代でなく、地球を人類共同の生きる場として考え、有史以来続く人間の争いの歴史を共同に生きる歴史に変えるのか万物の代表たる人間の役割であるなら、言葉は相手との意志疎通の手段ですので、日系人外国人を問わず日本の歴史的成立を知ってもらい、そこに生まれた言葉、生活、文化を通じ日本、日本人を理解してもらい玉川学園の全人教育、（真膳、美聖、健富）の実践活動に努め、子供、大人、地域社会にわずかでも役立つよう、あせらず、きばらず、ゆっくり、努力していきたいと思います。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

提　言

① 同じ教師でもレベルが違うので自分が特に勉強したいと思う分野があるはずですので、週に一度位は選択課目が有ると良いのではないでしょうか。

② 教師により、子供対象と成人対象とかおられるので、子供担当の先生は、時間数を幼児期対象に多く、成人担当の先生は成人対象とした時間数を増やしていただけると良いのではないでしょうか。

要　望

器材の取り入れ方、使い方の指導等
（ビデオ、ＬＬ教室、ワープロ等）

4．所　　感

私は国の良し悪しは、その国の国民の質に有ると思います。かつて、日本人は、寺子屋式の中から、明治維新を作り今日の基礎を築きあげました。今や経済大国となった日本ですが、青少年の学問、家庭内暴力等、問題が無いわけではありません。

それは、何が原因でしょう。経済至上主義、例えば青少年には、法的にも禁止されているものが、お金さえ出せば24時間買い求める事が出来るのは、どうしても社会的環境が悪いという他に有りません。「今の若い人は」二口目には、こんな言葉を聞きますが、大人社会には、責任の一端もないのでしょうか。

今や日本社会は、物質文明と精神文明のアンバランスの時代、日本人が国際社会に位置する役割等を論ずる社会環境を大人が青少年に与えてあげて下さい。

又、海外で活躍す教師は、生きた教材と成る為の努力を怠らず、しいてはその国々の基礎作りに必要な人材養成に尽し、日本、日本人を誇張することなく、現存するその国情を理解し、少しでも役立つよう、頑張ろうでは有りませんか。

最後にＪＩＣＡの職員の皆様、センター内での講師の先生及び玉川大学の諸先生方の筆書に尽せぬ程温い御厚情に深く感謝致します。本当に有難う御座居ました。

ボリヴィア国サンタクルス県
ヌエバ・エスペランサ小中学校
国吉　小百合

1．当初、研修に期待したこと

私は二世で日本は初めてなので、この研修においてはできるだけ多くのものを吸収したく思っておりました。特に、

・　日本の文化に実際に触れると共に、日本の現状について知識を高め、教師としての視野を広めて行きたい。

・　日系人子弟（二世、三世、混血児等）に対する現地に適応した日本語の教授法と教材研究。

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　この研修後、私が務める学校は移住地内にあり、これからも日本語教育は日系人子弟が対象になり、言語だけでなく、日本の歴史的成立を理解させ、日本文化伝達と共に国際社会人の育成の為にがんばりたいと思います。

・　未熟な私ですが、一世と三世の橋渡しとなり、玉川学園大学で教わりました全人教育の一端でも生徒に伝え、現地の先生方共々努力して参りたい所存です。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今回の研修内容につきましては大変充実しておりましたが、あえていわせていただきますれば、

・　日本語を外国語として教えている学院等の授業参観が出来ればと思いました。

・　低学年教育の時間数が多く、もう少し高学年又は成人対象の授業内容を考慮していただきたい。

・　出身地研修後の日程が誠に忙しく思いましたが、前半と後半の部を調整すれば良いのではないでしょうか。

4．所　　感

私の両親は沖縄県出身ですので日本の事を幼ない頃からよく聞かされていました。加えてボリヴィア国から日本へ行かれた先輩や知人からも色々の情報をいただいておりましたが、奇しくも今年JICAの招きにより、三ヶ月コースの研修に参加させていただく事になり無事九月に当着、見るもの聞くものが総て私の国とは違っていました。特に日本人の心、即ち天皇陛下の御病気のために私の見たいと思っていた日本の祭り、そして諸事業が総て自粛の型を取りほとんどみれなかったのが大変残念ですが、反面日本人の陛下に対する敬意の念をみたように思います。

地方研修で両親の故郷に行き、全く知らなかった親戚にも逢う事が出来ると同時に、沖縄文化をも垣間見る事ができました。又日本の四季の移り変わり具合、紅葉の美しさはボリヴィア国にない光景ですので心に残りました。研修後帰国し、日本の諸事情を生徒達に聞かせてあげたいと思います。

最後にＪＩＣＡの皆様、玉川学園及び海外移住センターの講師の諸先生方に紙面をもってお礼申し上げます。本当に有難うございました。

メキシコ国メキシコシティー
日本・メキシコ学院
横　山　陽　子

1．当初、研修に期待したこと

・　日本の日本語教育の現状を知るとともに、新情報を収集すること
・　日本語教師としてのあり方を知り、自分自身の資質向上の機会とすること
・　現在、自分の所属機関で行なっている日本語教育の妥当性を検討すること
・　所属機関発行の自主作成教科書をチェックして頂き助言指導を得ること
・　ＬＬ教室の為の教材収集についての助言を得ること
・　中南米の他日本語教育機関の現状を知ること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この研修で得た知識を纏め、よく咀嚼してから同僚に伝え、皆の成果とするとともに、世界的言語の１つとなった日本語の重要性を認識し、現地での教育のあり方を再検討したいと思います。

又、講師の方々から、日本語教師としての資質、教師として特に注意したいこと、良い日本語教師になるヒント等を頂きましたが、指導者・学習者の双方の立場に立って伝授頂いた内容を噛みしめ、それに少しでも近づけるよう努力していくつもりです。

研修で得たものを媒介として生徒の個性・自主性を尊重しながら、日本語、日本文化指導を通して日墨友好に役立ち、更に国際社会に寄与できる人間の育成にありたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　入国以前に研修概要、日程が入手できていれば、心構えや事前準備ができること
・　拘束時間が長すぎて予習、復習が追いつかず授業内容を十分に消化することができない場合が考えられるので自習・自由研究ができる時間と体制が欲しいこと。
・　在日日本語学習機関参観の機会を設けること
・　指導主任講師との懇談の場（Ｈ・Ｒのような時間）を多く設けること

等を今後希望致します。

4．所　　感

１年が四季に等分されている日本で、ほぼその 3/4を体験することができ、この３ヶ月は移ろう自然の姿・造化の妙に感嘆する日々の連続でした。

新年度の多忙な折にメキシコを出てきてしまいましたので、1300名の児童・生徒、現場を守ってくれている同僚のことが気がかりだったのですが、今、帰墨を控えて、無事研修期間を全うしたこと、期待していた点に関してほぼ回答を手にすることができたことに満足し、この成果を持

ち帰り、日本メキシコ学院の侍の成果とすることで報いることができると思っております。

研修プログラムは大変豊富で、それぞれに日本語教育に携わるものとして大きな意義が御座居ます。その中でも日本語教師としてのあり方を講師の方々より御教示頂きましたことを、今後の自己の教育活動の良き道しるべとしていくつもりです。私もとかく生徒の立場を忘れたり、言語的・文化的目的にだけとらわれて指導をしていたように思います。

この点については、今回の研修で消化しきれなかった点を学習し続けていくことと合わせて教育学の原点に戻り、教育原理、教育心理学等から今一度勉強しなおしたいと思っております。

又、日常生活、所外研修等を通して日本文化を再認識したのですが、外国人に日本の文化を教える際には、現地の文化を熟知し尊敬する心を持って臨むようにしていきたいと思います。今までは頭だけでそのことがわかっていたのですが、今回の自分の体験を通して、当然のことですが、外国人も日本人の日本文化に対する思い入れと同じものを自国の文化に対して持っているということをはっきり認識することができたからです。
日本文化といいますと、茶・華・書道・短歌の時間を設けていただいたのは、大変うれしかったです。私個人としては年令を経たからこそ謙虚に受け入れる心構えや、道の精神に触れることが出来たからです。帰国してからもぜひ続けていきたいと思います。

更に研修期間中に所属機関（日本メキシコ学院）の現行の教育内容の妥当性について助言を頂くなりして検討してみたかったのですが、残念ながらその時間が得られませんでしたが、この3ヶ月間は機関及び自己を客観的に眺めるのに大変良い機会だったことでそれに変えることができます。

帰墨致しましたら、この研修での成果を十分に活かしまして、国際学園の名に恥じないよう日本メキシコ学院の日本語教育充実に全力を注いでいく所存です。

講師の方々、センターの職員の皆様、この研修に携わられた方々に厚く御礼申し上げます。

Bコース研修総括報告書

期間：1988年４月12日～1989年３月29日（１年コース）

ブラジル国ブラジリア連邦区
みどり学園
井上明楽ジューリョ

1．当初、研修に期待したこと
日本を見ること。
日本語を学ぶこと。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）
・ みどり学園で日本語を教える、そしてここで学んだ、または経験したことを人にできるだけつたえること。
・ 日本語にたいして正しい概念をつたえること。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項
センター内だけの生活ではなく、ほかの所にすんで、もっと日本の社会に入ること。

4．所　　感
人と人の付き合いはむずかしいものですね、とくに団体生活をしないといけないとき。

ブラジル国パラ州ベレン市
アマゾン日伯日諸講座
丸岡義彦アウベルト

1．当初、研修に期待したこと
1．日本人の考え方（または現在の若者の考え方）
2．日本語のレベルアップ
3．日本文化・歴史などの学習
4．外国語としての日本語指導方法・学習者が興味を持つような指導方法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）
海外移住センター・玉川大学などで学んだこと（指導技術・知識）をブラジルでの日本語教育に生かしたいと願っています。また、この一年間に研究したこと（生徒に興味を持たせること）を生かしたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1年の研修もアッーと言う間に過ぎてしまい、まだまだいろいろと勉強したかった。まず、日本人の考え方、気持などを知るために日本人と同じ生活をしたい気持が残っています。

4．所　　感

1）日本は日本人、ブラジルはブラジル人ではなく、地球は「人間」だと広く見る事ができたので、私自身の人間性を大きくしたと思います。

2）ブラジルでの日本語教育に希望を持って、「私の夢」を実現するための“階段”を一歩進むことができたと思います。

3）センターでの生活はいろいろと楽しいことがありましたが、悩んだ時もありました。センターの生活ではなれていなかったこと（門限10時P.M、日本の牛肉はあぶらが多いなど……）が研修生たち、私も含めて慣れくい生活だと思います。

4）日本、国際協力事業団を通して、指導、援助をくださったことは一生忘れられないことである。または習った多くの指導技術、知識などをブラジルで生かしたいと思います。

ブラジル国シナス・ジェライス州
ミナス日伯文化協会日本語学校
土屋真弓エリーザ

1．当初、研修に期待したこと

センターや玉川での講義を受けながら、日本語教育に必要な基礎知識を身につけること。
研修旅行、色々な所へ行き、日本をもっとよく知ること。
日本での生活を通して、日本人の感覚を理解するようになること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

センターや玉川の講義を通して身につけたことは、どんどん教室に取り入れていきたい。

日本語教育に限らず、この一年に見たり、聞いたり、感じたりしたことを一人でも多くの人に伝え、日本に関心を持ち理解するようになってもらいたい。

たった一年に、同じBコースの仲間をはじめ大勢の人達と知り合うことができた。これからも連絡をとり合いながら、視野を広めていきたいと思う。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

同じBコースの中でも、成人を対象にしているグループと、幼児を対象にしているグループがある。どちらの側にももの足りなさや不満を残さないよう、講義の内容など考慮してほしい。

高田馬場の日本語学校での実習は貴重な体験だった。実際に、日本語学習者を相手に行うし、後で他の研修生から批評を受けたので、自分の授業の長所・短所がよくわかるので、これからも続けてほしい。

３月の週末は荷作りなどで忙しくなるので、課外研修などにあてないようにしてもらいたい。

年が明けてから、センターに新しい先生方がみえ、新しい講義が増えた。しかし、これではどの講義も消化しきれなくなるので、一度に増やさないでほしい。

４．所　　感

最高に充実した一年間だった。

日本語の能力もそうだが、あらゆる面で少しずつ伸びることができたと思う。

まず、日本語に関しては、話をすることに対する緊張感がだいぶなくなった。

一年間生活することにより、日本を身近に感じられるようになった。

仲間が11人もいたということは、共同生活・団体行動の大変さを思い知らされたが、反面、いい刺激を受けた。

ＪＩＣＡの職員の方々、センターや玉川学園の諸先生方、研修生の皆さんには大変お世話になり、深く感謝しております。

ブラジル国サンパウロ市
大志万語学共同学院
清水理恵　カチア

１．当初、研修に期待したこと

１）日本語教師としてもっていなければならない基礎的な知識の習得

２）日本語の能力のレベルアップ

３）教材・副教材の研究

４）日本語を外国語として教える場合の教授法

５）日本の四季を肌で感じること

６）先祖の国である日本へ来て、日本人の心、文化などを自分の体で感じ、理解すること

２．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

１）日本語を知れば知るほど、この言語についてまだまだ勉強が足りないということを感じさせられました。ブラジルへ帰って教える立場になって、もっともっと自分の勉強を続けたいと思います。

２）日本で教わったことを基にし、教授法なども自分なりに工夫し、日本語教師としての第一歩

を歩みたいです。

3）今すぐでなくても、現地に適した教材等を作ってみたいです。

4）日本語を教えるだけでなく、言葉の背景にある意味、ものの考え方、そしていろいろな観点からものごとを見ることができるような人を育てたいと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1）いろいろと事情があり難しいことでしょうが、外国人に日本語を教えている学校見学をふやしていただきたいと思います。東京外国語専門学校での実習と参観はとても良い勉強になりました。

2）「金沢を世界へ開く市民の会」との交流を、今後続けていただきたいと思います。ボランティアでご活躍されていらっしゃる立派な先生方と知り会えたこと、ホームスティさせていただいたこと、とても素晴らしい経験でした。

3）茶道・花道・書道のおけいこは続けた方が良いと思いますが、ロボットみたいに動作を繰り返すだけではなく、おけいこが始まる前の10分ぐらいで良いですからその歴史とか考え方を教えていただきたいです。

4）音楽の授業は、センターで行なうものだけではなく、玉川大学の高森先生の授業もとても良かったです。この先生は、の音楽だけではなく人間形成的な授業もしてくださるおもしろい先生です。

この授業は他とは少し違って日本の学生と友達になり、いろいろ聞きだすチャンスがある時間だと思います。

5）玉川の短歌の授業で、急に私達に五・七・五で歌を作るようにと言われてもなかなかできるものではありません。はじめは日本に昔からあるものを読み、それを味わえるようにご指導おねがいします。

6）復話術の授業はおもしろいですが、みんなが興味あるものはないので、できれば選択科目にしていただきたいです。

7）玉川の幼稚部は設備も整っていて、先生も生徒もいきいきしているところを見学させていただきとても参考になりました。これからも続けていただきたいと思います。

4．所　感

日本へ来て一年が過ぎました。今考えると長いようでとても短い一年だったと思います。私は前にも日本へ来たことはありましたけれど、観光に来るのと実際に生活することとはまったく違うことだと分かりました。有名な観光地だけではなく、身近なところ、町角や私達の周辺にいる人達とお話するのも大変勉強になったり、旅行中に出会ったりしたお年よりの方とかにもいろいろなことを教えていただけたと思います。このように日本人の生活や習慣をもっと近いところから見ることができました。

そして自分も実際に生活して日本の良い面を見ることができ、ものごとの考え方や見方なども、この一年間でだいぶ変ってきたと思います。

私にとって四季の移り変りを体験するのは生まれて初めてです。四月に成田に着き、センターへ来るまでの高速道路の両側には桜が満開で桜の花に迎えられたようでした。そして月日が過ぎ、梅雨になり、鎌倉へ行ってきました。そこでは、あじさいの花がとてもきれいに咲いていました。この花はブラジルでも咲きますが、あじさいが夏に咲く花だとは今まで意識したことがありませんでした。

秋には関西旅行へ。そこでも生まれて初めて見る紅葉には本当に感動しました。写真などでは何回か見たことはありましたが、自分の目で見て、肌で感じるのはまた別なものです。「百聞は一見に如かず」とはこのようなことを指しているでしょう。

冬にはスキー旅行へつれていっていただき、雪の冷めたさを手にとって感じ、四季のフルコースを味わあせていただきました。

日本人の生活や文化が四季と係わりを持っていることを、つくづく感じさせられました。

その他、同じ屋根の下で生活したり、授業を受けたり、12名が一年間一緒に行動することも貴重な経験となりました。育った国、家庭の環境の異なっている12名が、毎日一緒に生活をすることは容易ではありません。一人ひとりにとってさびしいこと、かなしいこと、きずついたこともあったと思いますが、私にとっては総合的に見て、良いこと、楽しいこと、うれしいできごとの方がはるかに多かったと思っております。

授業について

初めのころはほとんど毎日センターで授業が行なわれていて、ここから一歩も外へ出なかったこともありました。その時、何だか日本に居るのに日本社会から隔絶している感じがし、少しもの足りないような気がしました。でも今考えて見ると私達は通学に時間をかけなくてもよく、それほどつかれたりしなく、その分、自分の時間がじゅうぶんにあったりしたことはとてもよかったです。

私達に講義をしてくださった先生方のほとんどが外国での日本語教育をご存じの方で、私達の問題点などを理解された上で、授業を行なって下さったことはとても大切なことだったと思います。

この研修の前期、後期のプログラムもとても良く組まれており、いろいろな面から日本語を見つめることを教わりました。

これから、日本語を通じておもいやりのある人間、相手の考えや価値感を理解できるような人を育てていきたいと思っております。

国際協力事業団の皆様、玉川大学国際部の皆様、そしてこの一年間お世話になった諸先生方に心から感謝申しあげます。

ブラジル国サンパウロ市
日本語養成講座受講中
葛西順子　ルシア

1．当初、研修に期待したこと

1．日本で実際生活をしてみて、日本人の習慣、伝統、心理、人間関係、あらゆる面で日本文化、日本事情のことなどを肌で感じながら勉強すること。

2．自分の人間性をもっと育てること。

3、自分の日本語能力をアップすること。

4．教材を作る、または使い方のヒント・アイディアを得ること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

私は4月にブラジルへ帰ってから、この2年間（1年は、サンパウロの普及センター、もう一年は海外移住センターで）の教師になるための勉強を、どうやって生かそうか、本当に日本語を人に教えられるのだろうかと以前から悩んでいました。いろいろ考えていましたら、ちょうど9月に来日したAコースの山内先生と知り合いました。山内先生は「大志万」というサンパウロ市の学校の先生で、そこで働くためには、少なくとも6ヶ月の研修をしなければならないというようなことを聞かされました。一応「大志万」に行って話をしようかと思います。でも、サンパウロにはいろんな日本語学校があるので、今は何も決められないと思っています。

できるだけ日本語教師を通して、日本語を教えながら、いろんな生き方、教え方があるってことを伝える働き方をめざしています。

なかなかブラジル、サンパウロの現実は厳しいので、うまくいくか大きな問題があり、居たたまらない気持でいっぱいです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　今年のBコースは農家のホームスティがなかった。私達はセンターの中だけで生活をしているため、日本の家庭を知らなすぎる。

・　センターでも玉川でも理論的な授業が多かったので、もっと実際に、使えるようなことを学びたいと思った。実習等が必要だ。

・　2学期には、センターへいろんなすばらしい先生も来て下さったりして、興味がわくようなテーマを選んで下さるが、何となく、ものたりない授業が多かった。

・　研修課題をすることによって、自分が知りたい物が勉強でき、いろんな本を読むようになり、とても良いことだと思った。

4．所　　感

この一年間はアッという間に過ぎてしまいました。私が日本にいたい気持を無視して……。

ここで勉強をして、わかったことは

1．私は日本語を話しているが、日本人が話す日本語とは少し違うこと。

2．文化・国民性とは、すばらしく、おそろしく、おもしろいものだということ。

3．自分がどんなにかブラジル人か、そして、日本語、日本人がもっとわからなくなったような気持になったこと。

4．寮生活は難しいものだということ。

良くわからないのですが、いろんなことが頭の中にあります。一年も国をはなれ帰国したら、まだ私の場所はあるのだろうか。本当に先生になれるのだろうか。それで生活していかれるのだろうか。そんな悩み事がいっぱいあります。

でも、日本に来てよかったのは、前よりも自分の視野が広がったし、日本語に対してもっと興味を持つようになったことです。

ブラジルもいいが、日本も長所が沢山あります。それが、ちょっとずつ私の中にあるのです。私の目的は、日系人にこだわらず、そういう他の国、他の国民の考え方があるのだと、自分の国とか文化だけが一番いいのだと思わせないように、なんらかの方法で伝えられるようになりたいと思っています。

ＪＩＣＡの皆様、先生方の暖いご指導、本当にありがとうございました。

そして、11人の仲間には、ことばにも表せない気持ちでいっぱいです。本当に皆と知り合ってよかったと思います。こんなに一度に沢山の友達をつくったのははじめてです。これからも友情を育てていきたいものです。

ブラジル国パラナ州
シアノルテ日本語学校
木　村　直　美

1．当初、研修に期待したこと

・　現地で適応する日本語教授法の習得
・　日本語のレベルアップ、又教師としての教養を身につけること
・　日本文化・歴史・文法などを学習
・　日本人の心を理解すること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・　研修したことをどのように消化し、現地教育とどう結びつけるかを検討し、理想的な日本語

教育を実践してみたい。

・今後の日本語教育も、語学だけを学ぶのではなく、日本で教わった様々なことを基礎として、『育』の方を生かして、明るい、思いやりのある子供達を育てていきたい。

・ 日本は各国で経済力のある国として知られていますが、学校の生徒に限らず、一人でも多くの日系人やブラジル人に、自分が見て感じた日本う伝え、他の面でも日本を知ってもらいたい。

・ 外国でブームの日本語教育を通して、日本とブラジルの架橋の一人として、これからもがんばっていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

センターでの授業、又玉川の講義など、一つ一つ勉強になり、視野を広めることができ、大変嬉しく思っています。しかし、一つ残念なのは、斎藤先生の教材研究で短期間に教案づくりなどしましたが、これはもっと早くから指導してほしかったです。

研修旅行は、各地の一番いい時期に行くことができ、その時、その時の季節を肌で感じることができました。又、鎌倉見学は丸山先生の授業と関連していて、とても興味深い研修でした。

4．所　　感

・ この一年間、日本は大きな節目を迎えました。

昭和から平成にかわり、その時の状況を間近で見て感じさせられ、これは研修以上の勉強になったと思います。

・ 日本で学習したことを、これからきちっと整理し、色々な問題にぶつかったときは、これらを引出して、解決していきたいです。

・ 研修課題は、自分にはとても難しく、無理だと思っていましたが、先生方の指導を受け、提出できたのが何よりの喜びです。これからもこの勢いでがんばっていきたいです。

・ センターでの生活は、色々な喜びや、楽しみ、悩みもありましたが、これからの私の人生にとって貴重な経験となりました。

・ 国際協力事業団の皆様、色々指導してくださった諸先生方、一年の研修どうもありがとうございました。

又、私達の日常生活を全て担当してくださった江崎さんには、大変お世話になり、感謝の気持ちは、ことばだけではいいつくせません。

・ Bコースの皆さん、これからセンターを出たら、それぞれ遠く離れてしまいますが、この一年間一緒に過ごしたことを忘れないでがんばります。

本当にありがとうございました。

ブラジル国サンパウロ市
日伯文化連盟
関　口　ナツコ

1．当初、研修に期待したこと

日本語を教え始めて一年の新米教師

教師のあり方や、日本語そのもので疑問に感じた事について勉強したかった。又、教科書から離れて、日本人、日本社会を知りたかった。

大学に通い、同年代の学生とふれあうことも大きな期待を抱いていた。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この一年間、日本語教育やその周辺について、様々な事を学んだ。

自分がどれだけ吸収できたか、少し不安を感じるが、日本語を単に“語学の勉強”という側面だけで見ずに、人間同士の理解を深めるコミュニケーションという広い観点で捉えていきたい。

日本での研修で言葉の大切さを痛切に感じ、異った習慣や考え方の違いで誤解を招く事も知った。

ブラジル人が日本語を通して、日本という国を身近に感じ、お互いの距離を一層せばめられるように願う。

今時世界の平和を願うと言えば笑われるかもしれないが、二十一世紀に入ろうとしているこの時代、人と人との関係が重大な役割を占めるので、そういう事を考えながら、日本語教師として活動して行きたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今後のＢコース生がよりよい研修を送る事ができるようになるために、いくつかの気づいた点を書きとめておく。

あくまでも個人の意見として

・ 週に一、二回は宿題やテストがあった方が引き締まる。
・ 門限そのものは悪くないが、十時は早すぎる。
東京方面の学習会は九時、十時に終わるのだが、最後まで出席することができない。
正当な理由があれば、せめて十一時に帰ることを承諾してほしい。
・ 授業内容について、もっと研修生の意見を聞き入れてくれる場があってもいいのでは、文句を言うのではなく、日本での貴重な時間を有効に使いたいので。
・ 教材研究ではビデオの使用法が多かったが、現地ではまだ普及されていないので、手作りの教材を用いた授業法を希望する。
・ 帰国の際、教材を求めることができるのは大変うれしいが、送る費用が含まれないために、

断念する場合もあるので、その点を考慮していただきたい。

4．所　感

一年間は、ありきたりな感想だが、長いようで短かった。長いと思うのは、アルバムをめくっていく内に感じる。

多くの人との出合、研究旅行での体験、一つ一つの写真に大切な思い出が残っている。

同時に、単調という言葉が存在しないかのように、目まぐるしく時は過ぎて行った。

日本語は勉強すればするほど、難しくなっていく、だが、その度に興味も増していく。

研修での先生方によって、改めて日本語というものを考えさせられ、広い目で、世界を見始めることもできるようになった。

若者は最近富みに無関心になってきている、という事をよく耳にする、だれにでも関心や興味の「種」はあると思うが、それを実らせることができるかどうかは、もちろん本人次第であると同時に手助けも必要とする。それをしてくれた先生方と研修生に深く感謝したい。

これからどのような形で学んだ事を伝達できるかわからないが、少しでも多くの人と理解しあえるようになりたい。

最後になりましたが、二才で移住したにもかかわらず、一世だという理由で断わられ続けた日本への研修・留学を引き受けてもらった国際協力事業団には、言葉で表わしにくいので、気持を込めて一言、ありがとうございました。

父親代わりの素的な江崎さん、お世話になりました。！

アルゼンティン国ブエノスアイレス州
ラプラタ日本語学校
宮　脇　郁　代

1．当初、研修に期待したこと

- 両親の故郷、日本を知る。
- 日本語を覚えると同時に日本人の社会生活や素晴らしい文化などを学ぶ。
- 日本の教育、特に小学校の学級経営の在り方、指導方法、指導案の作り方を身につける。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この一年間学んだ日本語の知識、伝統的な文化、自分が日本社会で体験して知ったこと、情報から受けた日本人の心を帰国してわが国の学校、または多くの人々に伝えてあげ、日本を紹介してあげたい。

日本語教育に自信を持って、移住センター、玉川大学の先生から熱心に教えていただいたこと

を、アルゼンティンの学習者に教えることを予定している。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

センターで受けた授業は成人向けが多かったので、もう少し児童向きの内容もいれて欲しい。

後期の授業内容はほとんど理論的だったので、表現教育や、実際に教材を作る時間も必要である。

平均的に理論の授業が多かったことと、これから教師の道を歩む研修生も多かったので、学習授業を増すこと、あるテーマの指導法のアイデアの交換と、お互いに批評をして正しい日本語の勉強ができ、実習実施の前の準備にもなる。

玉川大学の授業はセンターの内容と重なった科目があったけれど、学生と話し合う機会ができ、日本の大学生活、若者の考えかたなどを知ることができた。

4．所　感

桜の花に迎えられて始まった、一年間の日本での研修が終えました。

はじめて来て知った両親の故郷で日本語の講義を受け、何も心配なく楽に勉強ができて大感激でした。でも、日本語があまりできないので最初は心配でしたが、今振り返ってみると、どれぐらい役に立ったか自分自身が感激しています。

この限られた一年の研修の中で印象に残ったものは、各国々からこられた研修生と生活をして、日本語または国際的な情報をあたえてもらい、良い勉強にもなりました。

小さくて大きい日本を研修旅行で京都・奈良・鎌倉の旧跡名所や、秋の紅葉を味わい、伝統的な金沢、キャンプファイヤーの軽井沢など、地方の見学をして日本の歴史、文化を知ることもできました。その他、夏休みには、両親の故郷へ行き、初めて会ったおじさんに両親が育った地域を案内してもらい、懐かしく感じました。

センターの授業はそれぞれ文字・表記・音声・文法・日本事情・教材研究などを教えていただき、先生方から日常生活の情報も一緒に伝えてもらい、とても良い参考になりました。でも、一番役に立ったのは、日本語能力の試験、そして初めてワープロでうった研究課題の発表や提出をしたこの三ヶ月の間で、一年間の勉強をしたように感じました。

玉川大学の通学は大変でしたが、学生との交流、幼稚園、小学校の授業参観などで日本の学校の教育を知り良い参考になりました。

こうして研修でつらかったこと、全員で楽しんだことの経験、そして先生方の教えは忘れず生かしたい。

この一年間の研修は日本全国の皆様、研修機会を与えてくださった国際協力事業団、お世話になったセンターの皆様、熱心に御指導してくださった先生方、一緒に行動してお世話になった同研修生の皆様、そして一年間悩みや喜びを聞いてくださった同室の関口さん、色々ありがとうございました。心からお礼申しあげます。

ペルー国リマ市
日本語講習会
山 内 光 子

1. 当初、研修に期待したこと

- 新しい日本の日本語教育（教授法、授業計画等）
- 今の日本を見る
- 自分の日本語能力を上げること

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

ペルーへ帰り日秘文化会館で日本語を教えます。

日本へ来る前は初級1、2を教えていたが、これからは段々に上のクラスも担当して行きたいと思う。

日本で一年間学んだことをほかの先生方に伝えて、又それを生かしてこれからの授業に役立てて行きたい。

ペルーでは先生方が期待して私の帰りを待っているらしいが、先生方の期待に応えられるようにしたい。

日系人協会を主に多くの日本語機関のお手伝いをしながら、自分のための勉強をしながらがんばりたいと思う。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今年度の研修はとてもよかった。

勉強だけではなく、色々な所へ旅行にも行けたし、ただ観光だけではなく夏期大学や京都の同志社大学のようなものもとてもよかった。

日本語学校の研修もよかったから、このようなことを毎年続けてほしい。

できればもっとリトミックなどの指導も多い方がいいのではないか。

成人、児童とクラスを分けるのもいいけど、色々な面で視野を広めるためには今のようなものでよいと思う。

4. 所　感

センターでの生活は新しいことばかりで、とてもよかった。

私は親もとをはなれてくらすのははじめてだったのでとても心配していたが、18回生、17回生達がとても親切で色々なことを教えてくれてよかった。授業に関しても沢山の先生方に会えたことは自分の人生にとって大きなものがあると思う。今すぐ役にたたなくてもいつか何かの形でプラスになると思う。

副団長という「役」をやっていてとても重荷になったし、気苦労もしたがよかったと思う。皆に迷惑をかけながらやってきたが、皆の協力がなければできなかったと思う。

いやなことも沢山あったけど、いいことの方が多かった。

一生忘れることのできない思い出になったと思う。

できれば2人部屋にしきりを作ってほしい。プライベートなことはまもりたいと思う時もあるし。又、ラジオのボリューム等もお互いに気をつけなければいけないことだ。

いつも人の立場に立って物事を考えなければいけないということがよくわかった。

本当に一年間どうもありがとうございました。

パラグァイ国イタプア県

ピラポ第一日本語学校

小田希美ジョランダ

1．当初、研修に期待したこと

1　自分自身の日本語能力のレベルアップ

2　日本語を教える時に必要とする日本文化の習得

3　1人1人の子供の可能性を生かすための教授法の習得

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1　1年間受けた講義を全部理解することは不可能でしたが、実際に問題に出会った時に、なんらかの形で日本で学んだことが頭の中からひきだされ、解決するのに生かされると思う。

2　日本語教育をしていく上、色々なことが影響するが、中でも大切で重要だと思うのは、教師自身の日本語と教授法だと思う。日本語そのものにも、教授法にも、余り知識がなかった私には、この2点について学ぶことができ、教室で漢字を教える時、文法を教える時等色々な授業で生かすことができると思う。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1　成人を対象とする日本語教育の講義が多く、自分自身の知識としては勉強になったが、もう少し児童を対象とする授業を増してほしい。

2　日本の小学校の教育現場の見学をしたかった。

3　部屋に男性が入ってもいい時間を決め、できれば入れる事を禁止してほしい。

4．所　感

両親からの話、ビデオ、雑誌等でしか見たというか知ったことのなかった日本に来れることが

決った時は、嬉しさよりも、双子に生まれ、片方がいないとなにをするにも不安な私が、日本で1人でやっていけるのかと両親も私も心配だったが、みんなのおかげで1年間楽しく過すことができ、少しは自立できるようになり、日本語、文化、教授法、もの事の見方、考え方等の知識を得ることができ心から感謝している。ＪＩＣＡのみなさん、先生方、Ｂコースのみんな、本当に1年間有難とうございました。

江崎さんが細かい心配り嬉しかったです。感謝の気持ちでいっぱいです。

ボリヴィア国サンタクルス県
サン・ファン学園
出　合　美　樹

1．当初、研修に期待したこと

現地ボリビアで、師範学校を卒業して、すぐに、小学校の低学年のスペイン語と日本語を教えることになった。働きはじめて、1年たらずの自分にとって、教える事について自信がなく、無知な面が沢山あった。そんな時に研修の機会を与えて下さり、自分にとって助け船のようであった。

日本語の本邦研修なので、日本の学校、特に小学校の事についての指導を沢山受けられることを期待していた。このコースでは、子供の教育だけの内容をとっていなく、むしろ大人に外国語として日本語を教えるための講義の方が多かった。もっと日系子弟、日系の子供に教えるための内容を教えてほしかった。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1年間、教育に関してとても広い知識を得る事ができた。

20代の後半に入ろうとしている自分にとって、まだまだ未熟であるが、成熟するための養分を日本で充分にたくわえて現地に帰れる事を信じている。あとは、現地の環境によってこれがどこまで育つかが問題である。もしも神様が私の願いを聞いて下さるなら、教職を生涯の職業として続けさせていただく事である。教師を続けていくうえで経済的な問題、結婚後の問題など、もう目の前に待ち受けているが、できるならば、ボリビアの日系子弟のためにこれからの自分の「時」と「エネルギー」を注ぎたいと願っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

南米、又北米の各地から集って来た研修生達は、色々な生活環境に立ち、日本語教育にかかわってきた。

一言で日本語教師と言っても色々な学習者を対象にしているので、それぞれの教え方も異って

くる。例えば、サンパウロやペルーのような都市では、成人を対象にして教えている組織が多くみられる。それに、学習者も日系人だけに限らず、非日系人も多くなっている。一方、日本人移住地やコロニアなど、日系人が集って住んでいる地域では、日系子弟向けの日本語教育が行われている。もちろん対象者はこの場合子供である。同じ日本語を教えるにしてもこの２つの教授法や教育内容は、ずいぶん違ってくる部分が沢山でてくる。

今後の要望として、この２つのキャラクターに合わせた別々のプログラムを平等に用意していただければ、両者とも満足な研修を得ることができると思う。

もうひとつは、理論的な内容だけに片よらず、もっと実践的で教育の現場ですぐに使えるような内容を増すとより良くなると思う。可能であるならば、日本中にある色々な学校のモデルなどを見学する機会が増えると良いと思う。実際の教育の場面をもっと多く見て、ふれあう必要がある。（例、オープンスクールなどの見学）これにつけ加えて言えば、研修生が実習できるような機会をなるべく多くすると良い。

4．所　　感

私はサンファン移住地で生れ、両文化にはさまれながら育って来たボリビア日系人である。戦後ボリビアへ移住して行った人々と共に、あのころの日本人の考えや習慣は今でもなんらかのかたちで生きつづけている。

そんななかで、だれもが想う自分の両親や祖先の国、日本への想いは大きいものがある。

思ったより早く日本に来るという夢が実現された事は、自分にとって思いがけないチャンスだった。外国でみる日本はほんの一面だけであって、実際に住んでみると、色々、昔から伝えられている文化と、現在にいたるまでの外国の文化の影響を受けたものがまざって日本独特なものができている。はじめは日本をあまり理解できなかったが、１年をとうしてこのような日本を少しはわかるようになった。

また、同じ日本で、南米やカナダから来た友達と共に過ごし、お互いの国の事など話しているうちに、世界はせまいのだと思えるようになった。

何よりも、ブラジル、ペルー、パラグァイやアルゼンティン、お互いに発展途上国同士の持つ問題は似ているものだと知らされた。

これからも自分の国、自分立ちの南米の発展のためにも、がんばって行く勇気が湧いてきた。

ここ移住センターでの寮生活、それから、玉川へ通った数ヵ月、今思えば、自分達は何も働かずに、こんなに多くの人々から研修のために時間と労力、そして何よりも、皆様１人１人のあたたかい心づかいをいただいた事をありがたく思っています。

今まで色々な出会い、そして旅立ちがありました。今回日本で出会えた人々の心のおみやげをもって又、遠い旅に出ます。目的地にはなかなかたどり着かない、しかしそこにたどり着くより、そこまでの過程が、自分の成長にとって大切になり、１日１日の小さなできごとを出会えた１人１人に心を込めて今、感謝の気持を伝えたいと思います。

「1年間、ほうとうにありがとうございました。」

カナダ国オンタリオ州
トロント大学東アジア研究科
若林広美リンダ

1．当初、研修に期待したこと

- 自分の日本語能力を向上すること。
- 学習に興味を持つような教授法を習得すること。
- 日本で勉強しながら、日本文化、習慣、伝統、日本人の心等を理解すること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 日本語を教えながら、日本の文化、習慣、伝統、行事等もカナダ人や日系の三世・四世に伝えたいと思っています。
- 小さい子供を教える場合に、勉強ばかりはちょっと退屈だと思いますから、音楽とか折り紙やリトミックもして日本語の勉強を楽しくしたいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 日本語を教えた経験は少ないから、できれば、授業参観、シミュレーションと実習を増して欲しいと思っています。
- 教える時に、自分のために文法は大切なことと思いますから、文法の授業を前期だけではなく、後期にも続けたら良いと思います。
- 玉川大学で授業を受けるのはいい機会ですから、センターの科目と、玉川大学の前期と後期とAコースの先生と一緒に取った同じような科目は重ならないようにお願いします。

4．所　　感

国際協力事業団のおかげで、日本でこんな立派な研修をして頂き心から感謝致します。

日本語だけでなくて、日本の歴史、日本文化、華道、茶道、書道も学んでとてもよかったです。それで、日本人を少し理解できるようになりました。カナダで日本語を何年間勉強しても、この一年間に学んだことに及びません。音声や文法や文字・表記や教材研究や教授法等がとてもいい勉強になりました。

日本語を教えて来た経験はないと言えるくらいほんの少しですから、幼稚園、小、中学校、専門学校、大学のいろいろな授業、日本人と外国人に向いている授業を参観して大いに役に立ちます。

玉川学園で玉川大学とAコースの先生と一緒にいろいろな授業を受けたり、参観したりしていい経験でした。

海外移住センター内では、北米から来ている研修生は私一人で、皆と話す時に英語は通じないので、日本語で話さなければならなかったが、とてもためになりました。南米と比べるとカナダで行う日本語教育は遅れているし、日系人は少ないから移住地はないし、社会に出るとやっぱり英語になります。それで、残念なことは、三世時代から日本語はもう話せなくなって来ました。ですから、これから毎年カナダから研修生が来られるようにお願い致します。

国際協力事業団の皆様にいろいろお世話になりまして誠にありがとうございました。

海外移住センターまでいらっしゃった先生方、玉川学園の先生方、ご指導して下さいましてどうもありがとうございました。

AコースとBコースの皆さん、たくさん楽しい思い出を下さって muchas gracias, muijto obrigada. Thank you very much.

研　修　日　誌

Aコース（3ヶ月コース）

9月21日　水曜日　晴　24℃　　金　城　タカミ

VARIG830便は予定より約3時間遅れて午後5時近く成田へ到着。カナダの研修生1名を除く（前日到着）19名が事業団、旅行代理店の方々の暖かい出迎えを受ける。ものすごい荷物と共に大型貸切りバスに乗り込み一路横浜へ向かう。途中、江崎さんのガイドにより、売場面積東洋一を誇るそごうデパートやイルミネーションに輝くディズニーランドの夜景を眺める。

移住センター満員のため、今月いっぱいはホテル住いとのこと。山下公園近くのパークホテルへ投宿。カナダの方も揃い、総勢20名。

ファミリーレストラン、24時間営業"すかいらーく"の案内を受ける。明日は午前9時10分ロビー集合。長い旅おつかれさま。これから3ヶ月間よろしくお願いしまーす。

9月22日　木曜日　曇り　　山　城　ほづみ

午前9時10分　中村さんの案内で、移住センターに向け出発

午前10時開講式　オリエンテーション

式次第

一、開会のことば

1　研修生紹介

1　所長あいさつ

1　職員紹介

1　閉会のことば

11時より松田研修課長より、研修生として出国する時の決意、目標を忘れず、目的を達成するよう努力し、教授法を身につける、等々の御指導あり。私自身の目標をもう一度思い出し、決意しなおす。

午後、江崎さんより、日程、滞在費等のくわしい説明がある。事業団の方々の誠心誠意つくされる姿に頭がさがる。南米の未来、開発、成長の為、働かれているのを見、感じ、私自身もっともっと真剣に日語教育に力をいれねばならない。成長、前進して帰える事。

9月26日　月曜日　小雨　後　曇り　　木　場　順　子

今日も朝から雨。本当に良く降るものだと思う。

持参した現金が心細くなってきたので根岸駅前の大和銀行へ他の先生方と行く。その後近くの郵便局で手紙を出し、センターへ向う。

10時20分より、斉藤アキラ先生のオリエンテーション。

去年の研修生の方々の希望により、授業時間、講義内容の改善が行われた由。

定められた講義の他に更に知識を深めたい人の為に、選択科目の設定も考慮して下さっていると

のこと。

日語教育の講義の目的は、疑問が出た時にそれに関する情報検索の方法を学ぶということに尽きる。日本でなければ出来ない事を体験し、単に知るだけでなく、わかってほしいと御自分の体験を例にお話して下さった。

自分では理解しているつもりでも指摘されると説明に苦しむ事がよくある。日本語に関しても生徒の前で知ったかぶりをすることのない様、研修の間にこの情報検索の方法を身につけたいと思う。午後より、新宿まで電車に揺られ、事業団本部への訪問　目も眩む様な三井ビルの46階だった。

帰りは他の3人の先生方と一緒にショッピングを兼ねて、新宿のビル街をブラブラして帰った。

9月27日　　火曜日　雨　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂本昌子

今日も又雨が降っている。お天気になってくれるといいなあと思いながらホテルを出ました。

他の二人の先生と根岸駅前の写真館にて健康保険や外国人登録するのに必要な写真を写られるのに御一緒して移住センターに向う。

10時より移住センター所長の講話を聞きました。

題しまして“日本の現状と課題について”

日本の三大問題をあげられ第1は行財政改革。（150兆円の赤字）第2は高齢化問題にどう対応するか。第3は南北問題（国際協力）開発途上国の出資等の話をユーモラスに分かりやすく説明され、現状としてアイウエオ夫人が多くなった今、カキクケコ夫人になってほしい、又世界に人物の交流、文化の交流が必要で、それには日本語の普及活動を通して日本人を理解していただくために、私達に重要な役割を果たして欲しいと言われました。

午後は玉川大学ですので、早い昼食もそこそこに何度も電車に乗りかえ、初めて見る玉川大学に着きました。噂の通り広大な敷地には驚きました。

Aコース・Bコース初めて皆一緒にBコースの案内で着きました。長野講師により開講式があり、研修資料の説明、研修内容、日程、時間表の発表、並びに玉川学園案内図の説明等を聞き沢山の教科書をいただき、玉川学園を後にひどくなった雨の中を帰途につく。忙しい一日に少しつかれましたが、来週からの玉川での講義を楽しみに頑張りたいと思います。

9月28日　　水曜日　　雨　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　菅原祐助

期待と不安の心で成田に下り立って、今日で早や1週間が経った。その間、開講式から始まり、週末の3日間を身辺の整理と時差ボケの調整にあてるのだが、折しも平和の祭典ソウルオリンピックの模様をテレビで観戦、それに速報で天皇陛下のご容体の重大さが刻々と画面に映るや、時差ボケもどこへやら一辺にふっとんでしまった。

一昨日（月）昨日（火）と斎藤主任講師のオリエンテーション、本部への表敬訪問、阿相センタ

一所長のご講話、玉川大学の長野先生のオリエンテーションと、Aコースの研修生の私たちに研修の意義、目的、心構え等ご教示下さったところで8日目の今日は東京見学を1日計画下さっている。

事業団の至れり尽れせりのご配慮にはただただ感謝するのみでこのご恩に報いるには、研修を真面目にしっかり勉強し、日本国民の血税を無にすることなく精進したいと思う。

今朝も朝からあいにくの雨模様だ。今日だけは雨も止んで、遠来のおじおばさまたちに終日楽しい東京見学させてほしいという願いもむなしく1日中雨。我々十回生は従来に勝るとも劣らぬいい心がけのもち主ばかりなはずなのだがネ。

この悪天候にめげずくさらずがんばりましょう。「雨ニモ負ケズ」で雨傘持参でいざ東京へ出陣。7時30分石川町駅ホームで全員集合。今日の引率者奥野課長代理もすでにいらしていた。お世話役の中村さんもみんなを待っていて、眼鏡のおくの柔和な瞳にまんまるいお顔は、明るい太陽の役目を今日一日果して下さることであろう。東京観光は「はとバス」で東京一日Cコース。

見学の感想（要約）。日本古来の文化を大切に保存継承しつつ、現代に力強く生きる日本のダイナミックな躍動に感動させられた。

9月29日　木曜日　曇り　鈴木峯子

朝ホテルを出る時はいつものくせになって傘を持って出かけたが、1日雨が降らなかったのでうれしい。午前10時20分から東京見学レポート作成の説明を受ける予定であったが、第17期研修生の修了式があるので、10時半より江崎さんから所外研修報告書の書き方、カントリーレポートの書き方の説明を受ける。その後各自で報告書やカントリーレポートを昼まで書く。さすが各国の先生方、日本語の先生をしているだけあってみなさんすらすら書いていらっしゃる。私だけおろおろしてなかなか進まない。頭をひねって昼食前までにはどうにか書き終った。

昼食後当番なので早目に講義室に入る。レポートを書くのが気になるのか、他の先生方も早く来て書いておられた。一寸した漢字を忘れるので、手元の辞典を引きながらのレポート作成、とても勉強になります。

午後斎藤先生の紹介で坂根恵子先生にカントリーレポートの指導を受ける。書き終ってから1人ずつ前に出てその国の事情について発表しました。皆さんとてもお話がじょうずでびっくりする。この発表を聞いて8ヵ国の様子がわかりとても参考になりました。10分間の休みをとって、その後坂根先生が1人1人の発表に対して総評して下さり、それも又とても勉強になりました。この様に助言することもあるのだなあと私自身とても考えさせられました。

その後各学校のカントリーレポートを書いて提出する。今日は早く終わったので、元町の商店街をショッピング、結局見るだけで時間が過ぎてしまった。夕食はきつねうどん　ホテルに帰ってテレビを見ようと思って硬貨を入れたら、映らないのでフロントの人を呼んで直していただく。硬貨

を入れたら見ても見なくとも2時間過ぎたらスイッチが切れるとの事。これも驚きの一つ。パ国に行ったら又話の種が増えたという感じが一瞬ひらめいた。

10月1日　土曜日　晴れ　　　　　　　　　　　　　　　　　星　ふじえ

今日は日本へ到着して初めての青空、いい空気を吸った。9時30分トラックでパークホテルから海外移住センターへ引っ越し。すごい荷物。階段を上がって運ぶのがたいへんでした。でも男の先生に手伝って貰いたすかりました。部屋割に不満がのこっているようだ。

昼食後は部屋の整理や買物で各自時間をついやす。それから昼食後江崎さんより教材を頂く。

日本語の知識と教育、「授業を設計する」、腹話術、ことばのテキスト、ドラマと全人教育、愛吟集、幼稚園教育指導書、短歌添削教室、全人教育論、国語辞典、ポルトガル語小辞典、漢字辞典、漢和辞典、PEQUENO DICIONARIO PORTUGUES-JAPONES、茶道具、書道具、華道具を各1人づつ頂く。

有り難く感謝しています。

10月3日　月曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　山内和子

8時15分センター発　9時40分玉川着

今日からいよいよ玉川にて講義開始

まだ時間があったので食堂にむかい、昼食のことをたずねる。10時30分より売られる食券をもとめてもよし、またお弁当～サンドイッチなどの販売もあるのでいろいろな方法で昼食ができる。

10時40分文IIにての初授業。まず自己紹介からはじまり、そして長野先生の「ようこそおいでくださいました」のお言葉とともに授業開始。「日本語教授法」

日本語教育＼
　　　　　　＞の差
国語教育　／

現在日本語教育が世界に普及し、ますます学習者の数も増すことにより－教師として「なぜ日本語を教えるのか」と言うことを、よく自分自身に確答することが大事でありまた必要である。などもう一度考えなおさなければならないような長野先生のお言葉。

12時15分～13時00分　昼食－各自自由

13時00分－第二時限→休講

この時間を利用して団長などを次のように決める。

団長→金居美知男先生

副団長　→小林文枝先生

会計　→菅原祐助先生

書記　→横山陽子先生

14時30分－小原学長とのこん談会

各自の国のことについて、お聞きになられる。そして、その１つ１つについてのコメント－話題の豊富さにはただ感心するのみ。

約１時間にわたってのなごやかな雰囲気　15時30分－玉川を後にする。

10月４日　火曜日　晴れ　　　小 林 文 枝

素的な秋晴れで皆洗濯に一生懸命。第１日目センターでの講義　10時集合江崎氏の連絡事項

1　センターで稽古の時の準備と片付けについて

2　10月14日　書道中止　13日に繰り替える予定

3　10月５日　６時よりＡ，Ｂ子弟合同懇親会予定

4　毎週火曜日10時全員連絡事項発表日とする

5　８、９、10、３日間連休の外泊証明届について説明

6　出身地研修予定表プリント配布、帰り研修日程

団員全員毎週木曜日朝９時から10時迄ミーティング

◎10時25分　第一時間目　斎藤先生「日本語学概念」

プリント４枚配布①S. 63年日本語教育能力試験要項②出題範囲主要項目名簿表③88年秋期日本語教育研修要項についての説明　本年度教員（日本語）受験者数、5200名　923名合格　外来語が日本社会に入ったのは1945年明治初期とされ、スピーチとは自分の思想を述べ本人が何を相手に伝えるか弁論、雄弁、演説もスピーチ式のやり方で今日にいたる。シミュレーション、私達の耳に初めて入る外来語、意味は場面を設定して１つのことを比べ談話させること。

◎13時　第二時限目　斎藤先生　「文法」

昼食後のため、皆な大口をあけてる人がいた。眠たそう！教材配布　「日本語の指示詞」コ、ソ、アについての諸問題について教科書読むこと。

◎14時40分　第三時限目　丸山先生　「日本事情」プリント配布。

１、位置、国土。２、気候と自然災害。３、人口　について現在のことなので楽しく受講出来た様子です。

10月５日　水曜日　曇り後雨　　　山 本 康 子

今日は玉川学園で研修

７：22の電車に乗り、８：29玉川駅に着く

９：30の始業までに時間があるので、駅前でお弁当を買ったり学園内を散歩したりする。

９：24事務の桑原、岡さんより「保育のしおり」の配布

９：30　Ⅰ　幼稚園部研修　文Ⅱ 401　高橋先生

まず「保育のしおり」を終えた後、水曜日の第１時限目を幼稚部の見学にあてるとの

事

10：30　講義　・玉川学園幼稚部の沿革とその教育理念

三育併進｛知育・徳育・体育

10：40　Ⅱ　漢字論　文Ⅱ 403　金平正先生

〜　長野先生の要請によりⅡⅢ時限の講義をそれぞれ30分ずつ短縮する。ゆっくり昼食を

11：40　摂って下さいとの事

（予定12：10）　講義　漢字の読みの面白さと複雑さについて

・「生」の読み方に挑戦、他

・漢字読みの複雑さは、呉音、漢音、唐、宋音、満州音などがからみ合って定着したため

各自昼食

13：30（予定13：00）Ⅲ　短歌論　文Ⅱ 406（予定 405）　金平正先生

〜　講義　・おととし、さきおととしの研修生作短歌や俵万智の歌を中心に注釈。

14：20　言葉の感覚を養う事

14：20　文Ⅱ 408　林　正之先生

〜　Ⅳ　折り紙実習

16：30　事務の桑原、岡さんより教材の配布

16：30（予定16：10）はさみ、のり、マッチ棒

折り紙、説明プリント35枚

講義・実習　正月①エト、98年度巳　蛇２種、②コマ

・折り方のコツ

講義の後各種折り紙の折り方をファイルした物５冊センターへ借りて帰る。

教材係の菅原さん、折り紙の見本を返しに国際部部室へ

各自電車でセンターへ帰る。

風邪気味の人がある。はやく元気になられることを祈ってる。

10月６日　木曜日　曇　　　青　木　敏　枝

午前９時より、研修生（第１回）のオリエンテーションを行う。議長は団長　金居先生

議題

１名簿作成

住所・名前（ローマ字）

電話番号

２各学校紹介

教材・教具

指導計画の有無

給料

年間行事

派遣教師について

◎学校概況

教師数・生徒数・経験年数・年令層・授業時間数・授業内容、複式か単式か

◎毎日６時半より、ラジオ体操、其の後、卓球、フォークダンス等自由に行う。

学校概況発表は次回より、以上決議した。

10時20分　第一時間目　坂根先生「文字表記」

公用文の書き表し方の基準（資料集）改訂版　教材配布　教科書説明の授業二回、後二回は教材の作り方、授業の仕方に付いて指導するとの事。

授業終了後研修生一同よりプレゼントを送る。

来週の課題　毎・母・海について

第二時間目　13時より　斎藤先生「音声」

プリント二部配布、実力診断テスト

音声と音声教育

アクセント辞典三冊について説明有り

日本語のアクセントの特徴はどんなものか？

(1)音の高低　高低というのは周波数が高いか、低いかの違い

(2)高低は相対的なものであるとの説明有り

次々に、アクセントの練習をする。

正確なアクセントは、なかなかむずかしい。

第三時間目、２時40分より講堂にてＢコースの研修課題中間発表聴講

司会者の挨拶

12名の研修生が各自の研修テーマについて発表、熱心に研究している事に感激する。

最後に坂根先生、丸山先生より講評があった。

木場・山本さんより感想有り

６時より、食堂にて、Ｂコース・Ａコースと中堅技術研修生の懇親歓迎会があった。

江崎先生の司会によりセンター所長の挨拶

Ａコースの金居さんのお礼の言葉、技術研修生のお礼の言葉、続いて宴会、おいしい御馳走をたくさんいただいて、カラオケで和気あいあい楽しいひとときを過した。これを催してくださった事業団に深く感謝の言葉を述べたい、どうも有難うございました。

10月7日　金曜日　うす曇り　　　　　　　　　　　　　　　　田野辺　悦　子

六時半より小林先生指導のもとにラジオ体操、ほぼ全員参加する。従来のラジオ体操といく分異なっている個所があり、新しいやり方を勉強する。

授業は午後一時より玉川大で石橋先生の全人教育、3時40分より幼稚部の本多先生の講義、ユニークな自己紹介の仕方を教えていただく。又これから3ヵ月の間に腹話術を全員習得できるよう御指導下さるとか。

昨日は、去年の研修生の1人で、ブラジルバイヤ州より参加した水落先生がセンターへ奥様と2人で、わり合い元気なお顔で訪れる。先生は研修中に心臓病に見まわれ、そのまま日本で治療を受け今日に至っている。早い御回復を祈る。

研修生として日本での生活も慣れ、2人、3人と仲良しグループも出来、下校時は三三五五グループごとセンターへ戻る。戻る途中は安いお店を見つけ毎日、毎日少しずつ、あるいは多く品物を買って。

10月11日　火曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　池　田　洋　子

10時より職員より連絡事項

内容・ Bコース課題発表の感想

・外人登録の件

・出身地研修の件

・京都、奈良研修の件

・書道の変更

・開発青年との懇親会

授業内容

第1時間目　日本語教育概説（斎藤先生）

(1)　日本語教材リスト使用目的の説明

目的

・参考書についての情報を提供

(2)専門用語の説明

(3)日本語教育検定試験の説明

(4)次回予告

第2時間目　文法（斎藤先生）

授業内容

(1)前回の復習

(2)第２章　場面と場
(3)第３章　「コ、ソ、ア」の体系
・第１節　「コ、ソ、ア」の用法
・第２節　現場指示の用法
・次回予告
第３時間目　日本事情（丸山先生）
・日本の人口問題
・日本の環境問題
・次回予告
以上移住センターで講義を受ける。
　午後４時半より日本間で最初の茶道を習う。
　私は茶道を心待ちにしておりましたので、少ない回数ではありますができるだけマスターしていきたいと思う。又、着物の着付けも教えてくださるとか。たのしみです。

以上

10月12日　水曜日　曇のち雨のち霧　丸岡すみ子
昨日はよく晴れていたが今日は朝から曇っている。
研修生活が始まって早、３週間目に入っている。風邪をひいた人も何人かいるようだが、皆大よそ元気。天皇陛下の御容体もここ５日間ぐらいは一応落ち着いた状態とのこと。
本日はＢコースの人達と一緒に玉川学園へ。
第１時間目　幼稚部研修　文Ⅱ 401　高橋先生
幼稚部の教育のねらい

玉川っ子
・よい頭　知育
・きれいな心　徳育
・つよい体　体育
} 三育併進

この中で特に徳育は人間性の基礎となるもので、幼児期から小学生の時期にこそ重要。
（礼拝の時間、純粋な心、強い体ということについて講義があった。）
※私は高校時代小田急線を利用していたが、きょうの授業を聞いていてその頃の一体験を思い出した。電車に乗ると、成城学園の小学生は空いている席に普通に座るが、玉川学園の小学生は席がたくさん空いている時でも、１人だけがそこに座り、あと残りの数名は、何か遊び（自分達の作ったゲームのようなもの）をしてオニになった子が交替で席に座るのである。「子供は遊びの天才」であり、しかも周りの乗客にも迷惑がかかっていなかった。ただし、15、６年前のことですけれど。
さて、今の玉川っ子は？

2時間目　漢字論　文Ⅱ 309　金平先生

漢字の構成について

象形文字の面白さ

3時間目　短歌論　文Ⅱ 406　金平先生

・短歌添削教室の P14～ P24（第一章「歌を作る」ということ）

・実際に研修生が作った短歌を取りあげ先生がこうしたらどうかということを指導された。

4時間目　折り紙実習　文Ⅱ 407　林先生

授業開始時、先生から折り紙で作ったしおりを1人1組ずつ頂いた。美しく便利なしおりなので早速利用する人もいた。

（色画用紙、色紙、教育おりがみの配布があった。）

・五行、七曜、十干、十二支　等の説明

・実習　すごもり鶴

　　　　みのがめ

　　　　鬼

授業終了後　今年の実習予定になっているおり紙の作品見本を見せて頂く。

各自電車で移住センターにもどる。

夕食後　7時半より　4階第1講義室にて書道

講師　笹本先生　　助手　池田先生

・筆の持ち方　おろし方　洗い方　しまい方

・墨のすり方

・永字八法、その他配布、説明を受ける

・一、二、三、四、五、六と名前をかく

“簡単のようで難し　和歌　書道　頭をひねり　肩をもみもみ”　おそまつでした。

10月13日　　木曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　立　石　礼　子

9時から10時20分までのミーティングの内容

複式授業と単式授業の進め方について。

・日本語教師本邦研修生の修了証書について。

・各国に帰ってから役立てるための

・リズム運動。紙芝居の作り方。工作。

ゲーム遊び。音楽（テープ）

公機関からの派遣教師要請。

図書館の運営と資料の管理方法等の指導。

学校運営についてなど話し合う。
※江崎さんからの説明
なるべく早目に帰国の日を決めてほしいとのこと
スケジュール変更など
10時20分　坂根先生
旧字体と常用漢字について
1時　斎藤先生
前回の復習、音声記号の説明、日本語と外国語の発音のしかた、鼻音化と無声音の使いわけ、正書法などなど。
2時40分　柿本先生　広告について
広告が出来上るまでの仕組。
次回の授業に宿題を与えられる。
題：「下駄」若い人に
1人10案
ターゲットは若い人。16〜28才の人
評品特製
新聞広告　全15段
日本下駄協会
テーマ：もっと若い人に下駄の良さをわかってもらいたい
4時30分　竹内先生
初めての華道（清和古流）
アッと言う間に終わってしまった。早目に授業終る。6時より開発青年達の歓迎会があり、ごちそうを沢山いただいて、明日のお弁当にと、おにぎりをいただいた。皆んなで後片づけしたらすぐに終った。心配していた当番も終わってつかれが出た。
明日も天気で元気でありますように。おやすみなさい。

10月14日　金曜日　はれ　　渋谷紀子
小学部の授業参観日、始業時間に合せ、各自出かけたが場所のわからない時は一緒に出かける方がよいと思う。（迷って遅刻者あり）
長野先生より参観の注意、小学部々長のご挨拶。
・参観授業は変更になった。
教室　　沢山の作品に囲まれた美術室
先生　　青野耕一先生

生徒　　小学部3年生　34～5名

授業内容　版画製作、課題自由

始めに先生のお話があり、版画製作の注意を絵をかきながら説明。各自作業に入る。先生はアドバイスのみ。出来上った作品をすり上げてゆく。期待と不安の生徒、お友達。…

身近かにあるもの全て教材と云う感じの作品に取り囲まれていた。Ex、発ぽうスチロールの絵、新聞での作品、ひも、マッチ、貝の額 etc。

・石橋先生の全人教育

「全人教育論」講義資料4枚　資料を中心に授業をすゝめてゆく。

「狼にそだてられた子」　人間として人間の中で生活しないと人間になれない。

「脳と人間」　人間の脳の大きさは何グラム？

自分の体の一番大切なところについて何も知らないのにびっくり。

・児童言語論

先生のご都合のため実技の授業のみで早めに終る。

1　簡単な絵を理由をつけて4つかき、2つをパートナーととりかえ、お話をつくり各自発表。

2　9文字（自分の名前　他）を紙に書き、その文字のみでのことばさがし。沢山のことばさがしをするため宿舎に帰ってからもう一度してみる。あるワあるワ…

4時半より希望者は玉川の学生と一緒に日本語教師のための説明会に出席

今日の授業は帰伯後すぐ役に立つとの声あり。

山城ほずみさん　ご病気のため通院。心配なしとの事。今日も無事終わったことを感謝。あすは土曜日みなうれしそう…

10月17日　　月曜日　　雨のち曇　　　　　　　　　　　　　塩谷アンヘリカ

二、三日前から急に寒くなりました。（17°位）

今日玉川学園で研修。

10：40～12：10　日本語教授法（2回目）　長野先生

文Ⅱ 502

DALTON PLANについてBコースの学生が質問したので詳しく説明されました。

－DALTONで始まった個別学習

－玉川学園で DALTON PLANを作って算数の授業に用いた。

－指導内容の吟味と精選

－必要性と可能性を元にしてカリキュラムができる。

13：00～14：30　腹話術実習（1回目）　本多先生

芸Ⅰ大教室（3階）

－人形を作って腹話術
－Aの音声で腹話術の実習
14：40～16：10　日本語文化論　　長野先生
文II 502
－「中南米の教育目標」
－日本語教育とは言語の教育と共にその言語をとおして、各地域社会に貢献でき得る人間造り
　つまり国際人造りである事
－言語の教育
－人間形成と言葉
10月24日と26日に、玉川学園で日本語教師の勉強している学生達との交流するのに（12：20～1：00
）昼食時間に話し合いをする。
－玉川学園の身分証明書をAコースの先生方に渡されました。

10月18日　　火曜日　曇　　　　　　　　　　　　　　　　　　金　居　美知男
昨日同様　どんより曇った1日でした。
・10時より江崎職員の連絡事項
内容
　1　22日土曜日、歌舞伎鑑賞の件
　2　出身地研修の件
　3　帰国の日についての件
　4　20日の海外開発青年との交換会の件
授業内容
　1限目　10：20分　日本語教育概況　斎藤先生
・日本語教育辞典（大修館書店）の紹介
・復習
　1　コ、ソ、ア、の体系
　2　場面と場
　3　コ、ソ、ア、の使い方
・語彙とは何か
・現場指示の用法
　次回予告
1：00　文法（日本語の指示詞）　斎藤先生
　文脈指示の用法

※融合型と対立型

例題での研究

実際例題を上げて練習する。

①観念対象

②指示対象

次回予告及びプリントを受る

2：40　日本事情（丸山先生）

政治について　天皇を離れて（戦後）は語れない。

天皇＝現人神

・戦後における天皇陛下の役割説明

昨日中南米から訪日した人達が天皇陛下のご病気が良くなられるよう、皇居へ記帳に行った話。

・立法、行政、司法、の説明

省、庁、（大臣が長）の説明

・自衛隊についての説明

憲法第9条について（戦争放棄）

4：20　茶道（石井先生）

御手前　→　表千家
御菓子の食べ方
座り方
歩き方
}作法を教わる

※日本文化を教わるのはとても骨の折れる事

なんとか1日が終わりました。

10月19日　水曜日　晴　　国吉小百合

久しぶりにスカッとするような秋晴れでした。

今日は玉川学園において次のような講義を受けました。

第1時間目（9：30～10：30）文Ⅱ 401　幼稚部研修　高橋先生

・復習

・幼稚部、教育のねらいである三育併進の内、今日はその二つ「よい頭」と「つよい体」について話される。

・体の強さ＝心の強さなので、それらを一緒に育てなければならない。現代の子供には三無主義（「無気力」「無関心」「無感動」）があり、ひよわに育ってしまう。

・学習にあたっては三層（「知識・技術」「能力」「興味・関心・意欲」）があるが、これをどう

指導するかによって子供の教育は左右される。

第2時間目（10：40〜11：30）漢字論　金平先生　文Ⅱ 309

・指事文字の成立ちについて。

・指事文字は絵であらわすことのできない事がらを点や線などの記号であらわす。

例：場所	―	隠す	L C
区域	□	合わす	△
切断	／	交わる	×

第3時間目（13：20〜14：30）短歌論・金平先生　文Ⅱ 405

・「短歌添削教室」第2章「表現技術についての概論」を読み上げ説明される。

・短歌のつくり

上の句　　下の句

五・七・五・七・七

（初句）（二句）（三句）（四句）（結句）

・先生が研修生の作品をいくつか取り上げ、黒板で添削された。

第4時間目（14：40〜16：10）折り紙実習・林先生　文Ⅱ 408

・前回先生からいただいた紙を使って箱をつくる。
大きさのちがう箱が順序良くかさねたものを見せてもらう。ふたを開けるように各々はずしていくと、まいには小さな箱の中に貝のひな人形が2コ入っていた。

・和紙を使い、「ひなまつり」のおびなとめびなの折り方を指導してもらう。でき上がったものは見本のように色紙にはりつける。

・授業後おり紙でつくれる色々なひな人形の見本を見せてもらう。
以上

10月20日　木曜日　快晴　　横山陽子

昨日に引き続き抜けるような青空。6時30分より定例のラジオ体操、フォークダンスを行なう。渋谷先生、病気の為欠席、早く良くなられますように。

第1時限（10：20〜12：00）「文字・表記」　坂根先生

主題　「漢字を教えるべきか、どうして漢字を勉強するか」

・「日本語の素晴らしさ」のプリントを用いて中国語、英語、西語、葡語と比較しながら、いろいろな例を用いて漢字の特長、便利さの説明をして下さる。
坂根先生は中国語も勉強なされたそうで、さすが漢字に造詣が深い方と感心する。

第2時限（13：00〜14：40）「音声」　斎藤先生

・アクセントの規則、平板型、尾高型、頭高型、中高型を「音声と音声教育」からのコピーを用いて指導して下さる。

・音声指導には必ずアクセント辞典を使用、授業にはひらがな表記でアクセント記号をつける方がよいとの御注意を頂く。

第3時限（14：40～16：20）「日本語教育教授法」　名柄先生

・名柄先生は現在上智大学の先生で、在米25年以上ミシガン大学で教鞭をとられていたそうで、お話の中に自然に英語が出てくる。

・Sophia International Review Vol.10を頂く。

・O.H.Pを用いて、言語教育理論の史的発展と日本語教育の現状を説明して下さる。直接法の起こ・歴史等又日本語教師として注意すべき点は私共も再確認しなければならないこと、心すべきことである。

第4時限（16：30～18：00）華道　竹内先生

・食堂にて、枝もの・そけ、スプレー菊を用いて基本形のおさらい。終了後、先生が一人一人なおしれて注意を下さる。20ぱい分もなおされるのは大変なこと、頭が下がる。

又々、センターは同じ活花でいっぱい。

7：00～8：30　「開発青年とA・Bコースとの懇談会」

国別、地域別に分かれてお国事情について座談会

12：30～13：30　「自主ゼミ」

団長より要望事項についての回答の発表

今日で来日1ヵ月、早く過ぎてしまったよう。座談会終了後、部屋に戻ったら22日の歌舞伎のパンフレットが届いていた。お願いしたことをすぐ実行して下さる江崎氏に感謝します。

10月21日　金曜日　曇り　　　　金城　タカミ

日本について丁度1ケ月になります。センターの生活にも慣れましたが、天候不順の此の頃、お互い健康管理に気をつけましょう。渋谷先生のご病気良くなられた様ですが用心のため欠席。

第1時限（10：40～11：25）玉川学園小学部授業参観

教科　　習字

学年　　四年　松組

指導者　　南澤雍助先生

習字課題：「各自の名前」と「すみ」

各々生徒は半紙に自分の名前を4回書き提出、先生が1枚1枚評価される。後「すみ」の練習。清書。

第2時限（13：00～14：30）全人教育論　石橋先生

先週配布されたプリントを中心に授業をすすめていく。人間の性善説、性悪説、白紙説や近世に入っての善、美、聖、真等についての興味深いお話があった。

第３時限（14：40〜16：10）児童言語論　本多先生

休講（来年度幼稚園入園希望者の面接のため）

第４時限（19：30〜21：00）書道（於センター）　笹本先生

「はらい」と「はね」の基本練習

各自の名前を楷書と行書で書いたものを戴き練習する。

※９月22日〜10月１日のホテルにての朝食代 4,000円（各一人）会計より頂く。

10月22日　土曜日　大晴天 22°　山城 ほづみ

午前８時45分研修センターロビー集合

歌舞伎座鑑賞の為国立劇場へ向かう。

江崎さんの案内で20名参加。（Ａコースのみ）

渋谷さんもすっかりお元気になられ、一緒に行く事が出来、良かったと思う。

午前11時30分開演、昼食は各自お弁当を買って中で食事。

題名　"日高川入相花王（ひだかがわいりあいざくら）"（安珍と清姫）

終了は15時30分幕間も入っているが約３時間の長いもの。私にとっては始めて実際に見る歌舞伎。昔、いつもテレビで見た事は良くあったが、目の前で見る歌舞伎のすばらしさにあっという間に時がすぎてしまった。特に尾上菊五郎さんを見て、ぽっとしてしまった。

歌舞伎といえば、年配の方が多いと思ったが若い方々が演じていられるのには、おどろき、かつ又うれしかった。特に青年の方が三味線をひいておられるのにも感激。

手ぶり、そぶり、全てのふりつけ、何を見てもお人形さんのように、美くしく、かわいく、扇雀さんの演技に圧倒され、涙が出てしまった。日本舞踊の好きな私は日本に来たら、是非見て行きたいと思っていた。しかし、今日の歌舞伎の踊りは舞であり、本当にすばらしかったと思う。演技をしているというより、日本伝統の芸術を護っていられると思う時、何んとしても、皆んなでこのすばらしい日本文化を、無くしてはならないよう、続けてもらう為、護っていかねばと思った。

何名かの方に感想をお聞きする。

・「古代文化の伝統が今でも残されているという事は、日本の古代の美術がすばらしいという事、又すぐれている事を意味する。」

・「せりふにわからないところ、聞きずらいところがあったけれど、それを、そのまま聞き続けた。又、続けていかれるという事は日本の文化の水準が高い事を意味している。」

・「鑑賞する前に少しでも内容を知るべきであった。」

又１度ならず、２度、３度見たいと思った。

終了迄手に汗にぎって見せていただき、この企画を組んで下さったJICAの皆々様に本当に感謝いたします。

有りがとう御座居ました。

10月24日　月曜日　曇り　　木 場 順 子

Ⅱ限目、長野先生の「日本語教授法」は先週の「日本語文化論」の続きでした。

先生は日本語教師の役割の重要性を説かれる。

軽い気持ちで日語教師を引き受けてしまった私だが、何だか徐々に肩の荷が重くなる感じがする。お昼は玉大の学生さん達との座談会。皆お弁当を食べながら和気あいあいと過ごす。
Ⅲ限目の本多先生の「腹話術実習」が休講の為、Aコース全員揃って図書館へ。図書閲覧証をいただく。田舎の市立図書館とは比較にならない程の蔵書の山にビックリした。上の階で武田信玄・上杉謙信の自筆の甲越軍記を拝見することが出来た。「本物」という言葉に弱い私は「手に取ってご覧になって下さい。」と言われても手が震えるのです。

皆さんの天にも登る様な美声（？）が聞けなくてちょっと残念な休講でした。

Ⅳ限目、第Ⅱ文学部教育学科国際社会部1年5組の皆さんとAコース、Bコース交えての懇談会。現代の若者を知る貴重なチャンスを与えて下さった長野先生に感謝。

帰りに知人宅に寄り、センターの門をくぐったのが9時45分。滑り込みセーフであった。同室の先生方は窓を開けておくとか、非常階段のドアを開けておくとかの相談をして下さっていたそうな。何という美しき友情よ！

10月25日　火曜日　小雨のち曇　　坂 本 昌 子

大変寒くなりました。いつものように6時30分今朝は皆時間励行でラジオ体操。今朝は渋谷先生も出席できてよかったと思いました。一応全部のフォークダンスも教えていただき小林先生には感謝致します。まだ最後までラジオ体操は続けたいと思います。

10：00　江崎氏の連絡事項

1）出身地研修の通知の報告

2）12月10日の1日はA・Bコースによる「レクリエーションの指導法」やる

3）各自帰国日を決定して早く通知する事

4）「日本紹介のグラビヤ」と「新任教師の歩みの記録」の本をいただく

第1時間（10：00〜12：00）日本語教育概説　　斎藤先生

毎週月曜日の日本語教育概説の時間は日本語基本動詞・形容詞のフラッシュカードをいただく。

フラッシュカードの使用法についての発表会をする。

1）語彙とは何かについての復習

2）日本語の語彙

（イ）単語の認定・語彙の画定のむつかしさ

（ロ）語彙の構造

（ハ）日本語語彙の特徴

（ニ）日本語教育における語彙の指導

3）語形

（イ）語形とは何か

（ロ）日本語の語形

（ハ）語形上の日本語らしさ

4）語種

（イ）概説

（ロ）和語

2時間（13：00～14：40）文法　斎藤先生

1）コ・ソ・アの復習

2）例を用いてコ・ソ・アの用法を学ぶ

3時間（14：00～16：20）日本事情　丸山先生

（外交）1）日本の外交

日本の外交3原則

① 國連外交

② 西部陣営（自由主義）

③ 東アジアの一員

2）経済協力

3）技術協力

4）文化交流

5）日本外交の課題

4時間（16：30～18：00）茶道　石井先生

割り稽古

5人づつに割け、稽古を3回づつ丁寧に御指導いただく。終わった時には足がしびれて立てなかった。時間の過ぎるのも忘れておいしいお（茶）菓子とお茶をいただきました。日本文化のよさをしっかり覚えたいと思います。

10月26日　　水曜日　　快晴　　　　菅原祐助

今日はきのうと打ってかわって天気も回復し、終日秋晴れの快い日であった。玉大の5階の学舎から眺める遠くの山々は抜けるような空にくっきり映え、小高い丘の木々の梢も色づき、眼下の朔風館から流れ出る学生たちも、うららかな日ざしをいっぱい浴びて、三三五五食事をしている。玉川の丘にも秋の深まりを感じる一時であった。

1時限（9：30～10：30）502号室　髙橋先生

幼稚教育論

幼児期の早教育の大切さを説く。

ご創始小原先生の考えを基調にお話を始められ、玉大幼稚部の実戦活動を通して幼稚教育のあり方を説明される。また、今の日本の学校家庭教育の現状にもふれられた。

子供は子供なりに日常の生活を積極的に取り組むことによって、生活経験を豊かにし、体を通して心身を鍛えられていく。この体験が人間形成に欠かせない要素である。

人間の精神形成として、知、情、意の３つをとりあげ幼児期において、知は学校で教えるものであり、情（精神力、気力、復元力）と意（意欲、態度、興味、関心）は育てることで、教育が成り立っている。学園では基礎精神形成期の園児を「育てる」（情、意）ことに留意して行っている。また、未分化の生活の総合活動が幼稚園であるという。

Ⅱ限時（10：40～12：00）　409号室　金平先生　　漢字論

○漢字の成りたち。（１）象形（２）指事は前回やり今日は（３）会意（４）形声文字の授業をして下さった。

Ⅲ限時（13：30～14：30）　409号室　金平先生　　短歌論

プリント配布された近代の代表的な歌人の秀歌58首を先生が詠んで解説し、鑑賞した。

Ⅳ限時（14：40～16：10）　409号室　林先生　　折り紙実習

ひな祭り（プリントP. 10. 11. 12）の内裏びな、官女、５人ばやしの３つを懇切丁寧に指導して下さる。

10月27日　　木曜日　　晴れ　　　　　　　　　　　　　　　　鈴 木 紊 子

６時半に起きてラジオ体操、フォークダンスも覚えて現地に帰ってから、生徒に教えたいので必死になって習っているという感じです。９時から教材研究発表の組分け、部屋交代の件について話し合う。その後江崎さんに出身地研修の件について説明を受ける。

第１時限はなし。

第２時限（10：00～12：00）

「文字、表記」　坂根先生

漢字の筆順を教えていただいたが、常に教えている私達が案外正しい書き方を知っていなかったので、内心「ドキッ」としたが、坂根先生は筆順はそんなに気にしなくとも良い、漢字は左から右へ、上から下へ書く様に注意すれば良いと言って下さったので安心しました。坂根先生の授業もだんだん楽しくなりました。

第３時限（13：00～14：20）

「所外研修指導」　坂根先生

Ｂコースの方に日本文化研究研修旅行（京都、奈良）の調査発表をしていただく。２世の方なの

に、よく難しい字が読めたと本当に感心しました。私達も研修旅行をするのに参考になると思います。仲良く旅行をしましょう。

第4時限（14：40～16：20）

「日本語教育教授法」　名柄先生

0.H.Pを用いて言語教育論を説明して下さった。

教材の選択

三浦　明　「初級ドリルの作り方」（東京凡人社　1970）

華道　（16：30～18：00）　竹内先生

食堂にて　アカシア、アイリスを使って活ける。先生がやさしく手をかけて注意して下さり、本当にありがたい。センター内は活け花で賑やかになりそう。

夕食後　19時30分より食堂に於てブラジル30周年記念ビデオ「遙かなるみちのり」を観せていただく。ブラジル日系人先住者の苦労に改めて頭が下がり、涙して自分の開拓当初を思いうかべた。

21:10　白鳥教材研究発表会のメンバーが各々集まって検討する。

センターで講義を受ける日は、夜も様々な事を学ぶのでとても1日が短く感じます。今日はとても忙しい1日でした。

10月28日　金曜日　晴　　星　ふじえ

9時～10時

玉川学園で授業時間前に大学生とのミーティングがあり

希望者　10名前後出席

・各自の自己紹介と生徒の質問に答える。ブラジルの食生活等。日本語教師になった動機

第1時間目（10: 40～11: 30）

小学校授業参観　6年生

国語の時間　　生徒数　40名

授業の内容

※論説文

・論旨とは何か

「知る」ということ　加藤周一

1　今日はいやな天候だ

2　明日は健康のためによろしい

この問題について教師が質問し生徒に発言させる

その後Aコース全員による南米紹介

第2時間目（13：00～14：30）

授業変更により礼拝堂にて早大峰島旭雄による講義

テーマ

・宗教を比較する

・玉川学園大学生、Aコース、Bコース出席

・仏教とキリスト教に対する比較などのお話を聞いて、いろいろ参考になり知識を得、とても役に立ち有り難く思います。

第3時間目（14：40～16：00）

児童言語論　本多先生

教室変更により幼稚園の教室で園児向きの教材、教具の説明あり。

紙しばい

ペープサート

指人形

子供が使うおもちゃなど

・ボール箱を使用して作る工作を始める

・最後の10分間を利用して腹話術の発声練習をする

・ 15:15授業中に地震があり驚く

後センターへ帰る

第4時間目　センター（19：30～21：00）

書道

・行書練習

・手本配布　4枚

1週間の授業最終日とて、全員少々疲れ気味だけど、一生懸命書道の練習にはげむ。

10月31日　月曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　山内和子

肌寒い風を感じながら秋晴れの空の下を駅へむかう。わずか1ヵ月あまりの訓練により、満員電車の乗り降りの要領も覚え、便利のいいホームの位置をえらぶといった技術の習得、さすがはベテラン教師達（？）…（自分もふくめて）…

1限目→長野先生－日本語教授法

3限目　まず連絡事項：－11月2日→10；40より

　　　　　　　　　　　11月4日→13；00より

授業内容

a）（早期）－児童日本語教育－ b）目的

a）外国語としての言語 ┌①－母語－外国語
　　　　　　　　　　　└②－第１言語－第２言語

－バイリンガル－習得のプロセス

b）－目的

1－言語的目的

2－文化的目的

3－教育的目的

言語習得→言葉が ┌もつ力
　　　　　　　　│およぼす影響
　　　　　　　　└つなぐ国際理解の心

2時限目→本多先生のご都合のために遊びを通しての幼児教育：いろいろな歌、お遊びなどを教わる。ひさしぶりに子供にかえったような楽しい一時をあじわう。

センターにて

・午後10時以後の行動につきセンターより注意。

・明日の斎藤先生の授業の「カードの使用法」のためグループにわかれ、それぞれ勉強。

11月1日　火曜日　晴天　25°　　　　　　小　林　文　枝

6時30分少し寒い朝です。だんだん床よりぬけ出すことがむずかしい今日となりました。10月より始まった朝のラジオ体操、フォークダンスも10曲皆憶え今日で最後となりました。地方研修やらその準備で休日です。

10時より江崎氏より小田原、京都、地方研修、帰国の2週間以内の申し込書と保証人証明書と帰国予定日の件についての話でした。小田原の座禅20～30分間とのことですが、皆続くか今から楽しみです。又京都の茶道等チャンスがあれば参加予定です。思いは皆んな地方研修の方に飛んでいる様子でした。11月の日程時間割が変更となり新カレンダーがもう手元に、早いもんです。20日センターに帰ると残り丸1ヵ月で、3ヵ月の楽しい合宿も終わりかと思うと悲しいです。

※10時20分　第1時間目　斎藤先生

白鳥先生のフラッシュカードを4グループに区分、カードの使用法について各グループの発表（同時進行の方法）シミュレーションという言葉を憶えました。

坂本グループ－文化を組合せ、ゲーム式反対語、形容詞法

木場グループ－日常生活に出てくる言葉を直接法にて

山城グループ－くり返し生徒とカードを身近に見えるよう

金城グループ－音声練習と動作と言葉を組合せ短文作

なお形容詞について始めに教えても良い

きれい な りんご　　　ゆうめい な 教会

きらい な えんぴつ

教案について　1　目的

2　何才児の授業か

3　計画表（カリキュラム）作成

昼食後、12時50分教室に集合

京都研修についてと、地方研修についての帰りの時間割と小田原の寺の説明書。

京都、奈良の宿泊所の住所について

※13時、午後の授業　斎藤先生　指示詞

石川淳という人　歴史的かなずかいを今もしている人の１人

文脈指示（コ）について　　　連濁音→" がつく

①知覚対象指示法

②観念対象指示法　　　風神雷神ジン

（コ）…主観的

情報の焦点①疑問分裂（文）

（ソ）…客観的　　　②分裂文（前提文）

新、旧の２部門

転位文－前文と後文をひっくりかえしつかう。

・語用論－語のつかい方

論理意味論、意味論、形態論

段活、話し言葉、書き言葉

談話＝文に対してのものをいい文法の１部に入る

主語、話題　主題－テーマ　パラグラフ

コ、ソ、アの原理について理解した。

※３時間目　丸山先生　「日本事情」

現代の日本又歩んできた日本の事情についていろいろ話し合う。

まず※日本　（にっぽん、にほん）どちらでも良い

※日の丸について　江戸時代の終りにしるしとされる。戦の時使用され、1870年外国交換の時大和の国より来たというあかしとされた。

左右丸の大きさ $\frac{2}{5}$　　※日本の歴史が残されたのは６世紀ごろから

※君が代について　日本は国歌としてのものはない

君が代は　　　主君　天皇が納めるこの世の中は

千代に八千代に　　　　千年も万年もいつまでも栄える世であり
さざれ石の岩をもなりて　　小石（さざれ石）が岩のように大きくなり
こけのむすまで　　　　こけがはえるまで続くように

明治時代　古今集　短歌（宮中音楽人により作られた）　　林広守

※日本には国の章がない。
天皇家の紋所16の花弁とされた。

※日本人の根性の表われ→人間がりこうで経済的に苦しくなった時なんとかしようと一生懸命働く人間が多いこと。

※現代の子供について
現実的であり合理的でないとダメ、機械化されすぎ考える力が足りない。大変残念に思う。これからの若者にもっといろいろ期待したい。

11月2日　水曜日　晴れ　　　　山本康子

コスモス祭取り止め（天皇陛下ご病気のため）玉川大平常通り授業

第1時限（9：30〜10：30）休講（予定は幼稚部の見学）

第2時限（10：40〜12：10）漢字論　金平先生

文Ⅱ 309　金平先生より本の紹介あり

藤堂明保著　漢字の起源
金平正　著　楽しく覚える漢字　1年〜6年
各 1,200円

部首について

昼食

第3時限（13：30〜14：30）短歌論　金平正先生

文Ⅱ 406　研修生の作った歌を板書し、添削指導してくださる。

※短歌の添削を受けたい人は、11月21日までに書き、金平先生の研究室まで届ける。原稿用紙には自作の短歌の内、好きなものを選び、題、国名、名前を書いて、12月7日までに提出。

第4時限（14：40〜16：10）林先生

文Ⅱ 408　おひなさまセットを折りあげる。
伝承こいのぼりを折る。

11月4日　　金曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　青　木　敏　枝

8時より第1講義室にて、部屋割のくじ引きをする。部屋の移動は日曜日午後8時より開始するとの事。

午前の授業は休講

午後1時～2時半より、石橋先生

全人教育論

ペスタロッチ主義というのは、16世紀イタリアから、アメリカ経由ではいってきた。

頭、心、手。

3H { 頭（HEAD）　知育
　　 心（HEART）徳育（宗教教育）
　　 手（HAND）　体育（技術教育）

身を立つるとは、全人となることなり、全人とは、三器合一であり、天、地、人の合一である。

第2時限　2時40分～4時10分まで、本多先生

児童言論、幼稚園の教室にて、教材作り、厚紙に、ネルの布を貼り、幼児用のはり付け板を作る。

古い絵本の切りぬきの裏面にネルの布を貼った。

後日それを使ってお話をさせるとの事。

第3時限　7時半より～9時まで（於センター）　笹本先生

書道

御手本配布3枚

来週の書道の時間には懇親会と、記念に先生の書筆をくださるとの事。

残り少ない時間を最後まで、全力を尽くしてがんばりたい。

意義ある実り深い研修となります様に。

11月7日　　月曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田野辺　悦　子

9時20分移住センターを出発。一路小田原へ向う。小田原駅で各自お昼のおべんとうを買う。大雄山よりバスで最乗寺へ向う。1人1人かなりの手荷物がありお互に助け合いながらお寺へ到着。お茶をいただきお昼ごはんを食べる。2時より法話、4時より座禅、6時夕食、10時就寝、最乗寺は曹洞禅宗で本山は福井県の永平寺と鶴見にあるとか。座禅は自己管理のため、身を整え、心を整え、呼吸を整えることにあるとの事。

11月8日　　火曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　池　田　洋　子

小田原最乗寺での2日目

・5時30分起床

・６時～６時45分まで礼拝を本堂で行う。
・礼拝の後30分間祈祷が行なわれた。
・７時30分より朝食をいただく。
・８時45分より荷物発送
・９時最乗寺出発
・10時30分発の新幹線にて京都へ
・京都に３時頃に着き、各自タクシーで岡たみ旅館へ
・夕食を６時30分からいただく

所感（最乗寺）

下界の諸々の雑念を追い払ってくれるような鐘の音を聞いていますと、“祇園精舎の鐘の音諸行無常の響きあり”という一節を思い出しました。

そして、住職の食事の作法の注意で“我々は食事をいただいた時に残すというのは考えられない”とおっしゃいました。その言葉を聞いて、そのお言葉にどれだけの意味が含まれているかと考えた時、身が縮む思いがしました。

最乗寺での２日間は本当に勉強になりました。

以　上

11月９日　水曜日　晴天　　丸岡　すみ子

京阪三条駅　９：30出発
京都観光バスにて京都見学（Ａ京の半日コース）
（自由行動も可能だったが、Ａコースの絆は固く全員バスに乗り込む。）
１　清水寺
２　金閣寺
３　知恩院（食事各自）
４　平安神宮　３時頃終了
見学後　自由行動
６時半　夕食
夕食後　11時まで自由行動

（所感）

観光バスで回ると時間が少なくて不満が残る。清水寺では、おみやげを買う暇も無かった。（でも頭の良くなる水を飲んだから、ま、いいか。御利益は30年後？）

金閣寺は、新しく金箔が張り替えられたので大変美しく、紅葉も素晴しかった。

知恩院の七不思議等を見学後、私は池田先生、立石先生と共に見学を抜けたので以後のことはよ

くわからないが、修学旅行の学生達の群れにどこに行っても出くわすのが実に日本的な体験であったと思う。

私事ながら、南禅寺と弘観堂に行ったが、どちらも紅葉が素晴しかった。着物姿で茶の湯を楽しむ人もあり、日本の文化と自然に改めて感服したが、歴史に疎い私にとって、時代、人名、由来 etcすぐに混乱してしまい日本の文化は緻密すぎるようだ。

11月10日　木曜日　小雨後曇り　立 石 礼 子

昨日に引き続き京都、奈良見学へと８時20分に岡たみ旅館を出発、五条大橋でバスに乗る。

朝から雨が降り今日の見学が心配される。

Ｂコースの研修生が転んで手首を痛める。江崎さんがとても心配して薬を探しておられた。私もシップ薬をもっているけどバスのトランクの中なので取り出せない。

どうか何事もなく見学が終えますように祈りつつ発車した。竜安寺から萬福寺に向かう。萬福寺では普茶料理といわれるめずらしい味の中国料理を食べ名前のように満腹（萬福）になって平等院そして法隆寺へと。

時間ギリギリに東大寺に走り込んで大仏殿に入り、大仏様を拝み終えて大和山荘へ。６時30分に夕食が始まりカラオケへと進んだ。飲める人はとても楽しそう。江崎さん、坂根先生、Ａ、Ｂコースの皆さんたいへん歌がじょうず、10時にお開きとなり皆さん各部屋でおそくまで飲んだみたい。

明日はみんな各地方にちりぢりばらばらになると思ってか、10日間の別れを惜しんで遅くまで話し込んだようです。

どうか体には充分に気を付けられて地方研修を終えられますように。かんたんすぎて、かんにんどっせ

11月11日　金曜日　晴天　渋 谷 紀 子

・小田原、京都、奈良と続いた研修旅行も無事終り今日は各自出身地研修にむかう。
楽しかった古都の旅に皆、笑顔で別れ、写真をとりあっての出身地への出発。早い人は朝食もとらずの出発。
７時　テーブルでの朝食。（おいしかったこと…）
江崎先生はＢコースの人達と奈良研修に出発
９時20分迄には全員ホテルを出る。

・沖縄４名、九州５名、北海道３名　他本州各地
（私は11年振りの帰郷、両親の亡くなった今、飛行機が千歳に近ずくと心はおもく、他の事を考えて心をそらしてはいましたが…　肉親はあたたかくむかえてくれたが、母の亡い里は只悲しいばかりでした。音もなく降る雪を涙でながめながらの出身地入り。）

以　上

11月21日　月曜日　曇　　塩谷アンヘリカ

2週間の小田原、京都、奈良の研修旅行、北海道への出身地旅行の後で、まだ疲れがとれないので、今朝早く玉川学園へ行くのがつらいと感じました。（自分にちょっとあまいかしら…）

北海道の方が横浜より暖房装置がいきとどいているので暖かく感じました。

9：00～12：10　表現教育（方先生）

9：00に始まる授業が10時頃になりました。造形、音楽リズムを総合的に表現教育で人間を育て、教える事である。

13：00～14：30　腹話術

声の出し方の練習

14：40～16：10日本語文化論

1－良い教師の条件

－人柄と

－外面的（言語、文化、教授法、学習者）に十分な知識がある事

2－授業成立の条件

－指導者と学習者をもとに、目標を達成するのに内容と技術をもちいる事。

11月22日　火曜日　晴　　金　居　美知男

10時20分、教材研究　斎藤先生

An Introductionta Advanced Spoken Japaneseの教科書について

※初級が終わった人に対して再び復習を含め、勉強する中級クラスの教科書

日本語は格助詞が基本である「が、を、に、と、へ」

格助詞の他は置換が出来る。

※以前の目録は題、文法項目（動詞、助詞）会話等が主だったが、最近は機能、概念、場面…文法、語いと続くようになった。

※そしてある場面を設定して2人～3人で練習を重ねる方式が現在主流である。

1時　広告の柿本先生はおやすみ、12／9に変更との事。変って江崎さんから、先日私達の寸志のお返しといわれ、20名に日本人形を下さった。全員何か悪い事をしてしまった様な気がしました。何故なら、中南米では、プレゼントに対し、お返しは考えなくともよいのです。

又、帰国について各人各様の日付により、各国に帰国する場合の情報や、荷物を作る場合の箱や重さの話

大きさ→たて＋よこ＋高さ　273cm　2ヶ

158（1）

115（2）

重量1ヶ32kg　個数2ヶ迄は無料

ＶＡＲＩＧの場合は1個分サービスで4個目は34,800円になる荷物についてはＡＢＣという運送業者が前日に運んでくれるとの事。もちろん日曜、祭日も休みなし。

2時45分　日本事情　丸山先生

・産業、小作農→自作農

農業　19世紀中頃日本は典型的な農業国であったが、現在は工業化した。そして米が余る。

※自作農は面積が少なすぎ化学肥料と併せとてもコスト高。生産価格より、販売価格の方が安くなっている。これは政府が食管法により、農家を擁護している。

・林業

世界最高の木材輸入国

・水産業　④畜産業　⑤鉱業等は全部良くない

・鉱業のうち鉄鋼業は世界的にも、生産高は高い。

・4時半　茶道

御手前のお茶は相も変らずにがく、座ることは相も変らずつらい。

終　り

11月24日　木曜日　雨後曇り　　国吉　小百合

この研修も後半の部にあたり、皆それぞれに荷づくりを始めています。

もうすでに郵便でお国へ送られた方も。

A.M. 9：00～10：00　ミーティングの時間

・団長が会議を進め、各研修生による学校紹介その他は次のような日程で行なう事になった。

11月29日（火）　P.M. 7時～9時

12月1日（木）　　〃

順番としてはリスト最後の先生から。

・富永法子さん（ボランティア）から立石さんを通じて数々の書物（教科書、絵本等）をいただく。

・所外研修報告書（関西旅行）、授業参観記録（出身地の学校）そして研修総括報告書の用紙をいただく。

A.M. 10：20～12：00　林先生　「意味」

・色（白、黒、赤、青）から受けるイメージと連想するものについてアンケートに答える。

・色の色々な意味

・古代日本語の色

・色の彩語彙の表現方法

P.M. 1：00～2：30　斎藤先生　「音声」

・日本音声学会による「はつおん」、一部のコピーをいただく

・母音の正しい発音

・子音の正しい発音（破裂音、摩擦音、破擦音、鼻音、はじき音）

P.M. 2：40～4：20　坂根先生

・日本語教育と国語教育のちがい

・派遣教師の現地における活動について

・日本語授業参観の申請について

P.M. 4：30～6：00　竹内先生　「生花」

食堂で黄菊と枝ものを材料に基本形に生ける。

思い出に、と皆自分の作品を前にして先生と一緒に写真をとる。

11月25日　金曜日　晴　横山陽子

快晴であるが風強し、玉川大へ通学の日、2ヵ月も立つと通学になれたのか、あひるの行列の長さも短くなったようです。

第1次限　小学部研修（授業参観）10：40～12：10

算数　「面積計算」4年桂組　菅野教諭

前時までの学習の復習・面積単位の変換（□cm→□m²等）をフラッシュカードを用いて生徒に速答させることが導入部。色画用紙を用いた長方形の芝生の中にクルスした道のある図で、道、芝生それぞれの面積を求める式を考えさせていたが、11通りの考え方が出る。（正解は2つ）だが先生が1つ1つ丁寧に子供の考えた式を板書。皆で考えるという形式で授業を進めている。教えるのではなく児童を上手に誘導し、ひき出している。時間ピタリで終了。終了時点でよくわかっていない児童が多かったようなので、菅野教諭にあと何時間同じ題材で学習するのかうかがったところ、「規定の指導はもう終了しています。」との御返答。本日の内容は応用ということで生徒の反応ぶりに納得。何名かの生徒がひき出しより自主的に「面積自由研究のレポート」というプリントを取り出して持ち帰っていた。

第2次限　全人教育論　13：00～14:30　石橋先生

前時までは主に教育原理に関しての授業内容だったが、本時よりいよいよ本論の小原国芳先生の全人教育論に入る。

研究資料　1．小原国芳による全人教育の提唱

2．成城小学校を母体とした新学校の系譜

3．校歌を通して「玉川学園の教育理念」を考える

4．小原国芳における宗教、補遺

5．宗教と学問・宗教と道徳・宗教と芸術

５枚のプリントにより全人教育のおこり、その後の流れ、玉川学園の設立の経緯、小原先生の宗教感について説明なされた。又、お話より小原先生は偉大な教育者であったと同時に、事業家の才もあったと感じられた。石橋先生は小原先生に心酔しきっているという感じで、講義はいつにも増して名調子でした。常にプリントを用意して下さるので筆記に追われることがなく助かります。

第３次限　児童言語論　14：40～16：10　本多先生

ドミノ遊びに使うひらがなカード作成

ことば遊びの例

第４次限　書道　19：30～21：00　笹本先生

ひらがなを御手本を見て書く

いつも通り丁寧な個人指導を戴く。

11月26日　　土曜日　　快晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　金　城　タカミ

東芝科学館見学

８時50分センター出発。10時科学館着

この科学館は1961年に創立され、東芝関連の広範囲の電気、電子の最先端技術を駆使した製品が展示してある。２班に分かれ、コンパニオン嬢の説明を聴きながら見てまわる。

・レーザーギャラリー

レーザー光線を使った足跡や、般若の面が見る方角によって浮き上がってみえる。その他、赤、青、緑３色による光線の美しい動きに目を見張る。

・ホーム・コントロール・システム

ドアや窓、テレビなどをコンピューターと対話することによってコントロールする。もちろん、事前に、コンピューターに声を登録することが必要。お手伝いさんのサザエさんロボットを使って、上の操作を見学する。火災、侵入者の警告もする。

・世界最大と最小の電球

眩しいばかりの超大型５万ワットのランプと、腕時計などに使われている0.11Wの豆電球

・立体映像

立体感ある映像が迫力がある。

・オーム（電子インコ）

電子部品で造られたインコが、話し手の言葉をおうむ返しにする。塩屋先生のスペイン語もちゃんと正確に反復してくれたのに皆感心する。

・高品位テレビ

果物の写真を本物そっくりに鮮明に映し出してくれる。走査線が現在のテレビの２倍以上あるとのことで、画面には線状の物が何も見えない。またサイズが従来のテレビより横方向に少し長くなっている。一番若いさゆり先生がモデルになって美しい素顔を見せてくれました。

・磁気共鳴、イメージング装置

人体に磁力線を与え、人体の70%の水分を利用し、体の内部をあらゆる角度から断層写真を写すことができるとの事。様々な病気の診断に利用されている。

・電子身長、体重計

台の上に立って、年令のボタンを押すだけで、身長、体重とその肥満度の比率が即座に出る。皆さんそれぞれ測定し一喜一憂していました。

科学者の頭脳に驚嘆する。

・高性能ロボット

６個の関節を持つ２台のロボットによるコマまわし芸。先ず、前方、左右に深々と頭を下げておじぎする様子に観客者もつられて頭を下げてしまう。上手にコマを回し、１台は刀を抜きその上でコマをまわす。もう１台は心配気に首を振り見守る。その様子など機会とは思えない程表情豊かで、思わず拍手喝采して楽しいショーのひと時だった。

・リニアモーターカー

未来の列車時速 500㎞で、磁石の力で浮上して走る様子を説明。

１時間で見学を終り、その後30分間、世界で使われている東芝の各種の機器についての宣伝映画がありました。

科学の進歩は目まぐるしく、この科学館も展示が追いつかない状態だとの説明があって終了。

川崎駅で解散。

11月28日　日曜日　晴後曇り　山城　ほづみ

寒さ、益々厳しくなる。私達もすっかり冬支度で元気に玉川大学に向かう。

第１時限　方先生　表現教育　A、Bコース一緒に

・２人づつ向かい合ってかがみ遊び

・なわとび遊び、半分に別かれて

・ゴムふうせん、紙ふうせん、バレーボール遊び、５名ずつ

・電話あそび（親子対話）

色々な曲に合わせての楽しいあそび、合った曲を選ぶ事が大切。

第２時限　ひき続き　方先生

子供の表現と劇あそび

・演劇教育とは、劇をとおして人生の事を勉強させる。経験させる。体験させる事。

・劇は楽しく、楽しんでもらえるように。

・劇をやりながら、幼児もそこに飛びこみたくなるような雰囲気を演出者、演出家は考えてリードしていく。

・意味伝達

・感情伝達＝言葉の伝達＝豊かにふくらませてあげる

宿題「ドラマと全人教育」のP 126「キツネとカラス」を各国語に訳す。

第３時限　本田先生

腹話術

　今迄は母音の「アー、イー、ウー、エー、オー」を発声しながら、胸声と腹声の発声練習、人形の声の発声練習。今日よりいよいよ人形との会話に入る。出ない出ないと思っていていた声が全員出てきたようで、今日は実際にお人形さんを持ちながら、前に出て練習。大変皆さんお上手でした。

“ケンチャン”「なあに」

“アノネ”　　「ウン」

次回迄に、もうすこし会話を考えて来るよう、宿題が出る。

第４時限　長野先生

日本語の特色をＢコースに聞かれる。

・擬態語の役割

・擬声語の役割

・文字表記が多い＝ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字。

　例、Ｙシャツ１枚¥2000より。

・敬語

・表記に省略が多い。

・数助詞

・同意異義＝アクセントで聞きわける

・男女のことば　　　等々。

次回迄宿題　学習指導案

例　それは私の本です。

　　それは○の□です。

この形体をどのようにして教えるのか

対象は５、６年生で日本語をしらない日系２世

１．導入

２．展開

３．結末、整理

早いものである。もう2ヵ月がすぎてしまった。後残る日々を事故なく元気に頑張っていこう。

11月29日　火曜日　晴天　木場順子

研修もあと半月を残すののみとなり、気分もそわそわと落ち着かず、荷物を片づけてみたりレポートの下書きでもと開いてはみるが、結局はかどらず、隣の先生とお茶を飲んでたり…。何かやらなくてはと思うと余計症状が悪化するので、こういう時こそ座禅かな？と思います。

教材研究　斎藤先生

1　「コミュニカティブに一歩近づく」青山太郎

・教室活動の特徴

・即興ドラマは、シナリオドラマよりコミュニカティブである。

・ロール・プレイ

・ディスカッション

・タスク練習

2　ＮＨＫ週間ニュース　ビデオシリーズ

ニュースは、日本事情の教材として使われるが初級には不向きである。－学習者の知識分野が異なるため。

・語句　・見出し語について

・形容動詞－日本語の構造に基づいての表記

・第1課　お盆列車

日本の広告　柿本先生

・ＴＶＣＦ…テレビコマーシャルフィルムについて

ＨＡＳＥＫＯのオブジェ（Objectの意？）を使った「都市への気持ちが一つです。」のテーマのものと　オペラ座撮影風景のビデオ鑑賞

・宿題の下駄の広告のコンテスト

1位　1人1人のリズム

2位　サイズがありません

3位　ゲタをはく、音が粋、そこよけ、そこよけ、下駄がゆく

日本事情　丸山先生

前の授業の超過で、30分くい込む

産業

・電機産業　´　韓国の進出

・機械　〃　産業ロボット

・自動車〃　貿易摩擦

・造船業　　　　減少傾向
・建設業　　　　ビル建築、青函トンネル
・化学産業
・繊維　〃　　　輸入に依存
・窯業　〃　　　半導体ガラス・ファイバーの発展

茶道

お点前（柄杓の扱い方、歩き方、 etc）
お菓子のいただき方
しまい方

7時30分からミーティング　9時終了
付属機関概要レポート発表
朝からとても忙しい1日でした。皆様お疲れ様でした。

11月30日　　水曜日　　晴天　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂　本　昌　子

今日で11月も終わり、2ヵ月半の研修もはや過ぎ残すところあと2週間になりました。1日がとってもはやくなったようで、玉川に行くのも残り少なくなり、紅葉がきれいで学生気分で通ったこの坂道はなつかしい思い出になりそうです。

1時間限（9：30～10：30）
幼稚部　石橋先生
幼稚部参観

1）登校して生徒達はお友達や先生達と自由に遊んでいた。
集合といわれたらきれいに後始末をして運動場に集合する。
2）3才児（ことり）4才児（うさぎ・りす）5才児組（きりん・しか）全員運動場に集まり、朝の挨拶をし、お祈り。そして先生より「うさぎとおおかみ」のお話を聞き簡単なラジオ体操をする。
3）本多先生よりA・Bコースの先生方の紹介をしていただく。
朝の挨拶を英語、ポルトガル語、スペイン語でやりました。
次は各國の紹介をしていただく。子供達はすなおに笑顔で迎えてくれました。
4）年長組のきりん組と一緒にお遊戯
（イ）なべなべそこのけ
（ロ）アルプスいちまんじゃく
（ハ）王子様とお姫様とにわとり
（ニ）トンネル遊び－小さな輪から大きな輪を作る。

子供になった気分で楽しく時間がすぎ、まだまだ一緒にお遊戯したいのですが、次の時間がきましたので次の教室へとよい経験でした。

2時間限（10：40～12：00）　漢字論　金平先生

・熟語のできかた

1）熟語の読み方

2）二字の熟語の意味の関係

3）三字以上の熟語の組み立て

4）熟語のむすびつき

5）短歌の添削を三句していただく

6）短歌の清書のしかたの説明、来週12月7日提出

3時間限（14：00～14：30）　短歌論　金平先生

短歌論は休講　音楽発表会と変更

「音楽発表会」　大体育館

交響曲第九番終楽章

「歓喜に寄す」

独唱　ソプラノ吉村温子　アルト妻鳥純子

テノール藤原章雄　バリトン島村武男

合唱　玉川大学・玉川学園女子短期大学1年生

指揮　高浪　晋一

管弦楽　玉川大学管弦楽団

4時間限（14：20～16：10）　折り紙実習　林先生

1）かぶと

2）ながかぶと

3）よろいかぶと

折り紙をしていたら時間がすくたってしまう。先週1回休講だったのが残念です。1つでも多く教えていただきたかった。

今日はセンターで消毒があったので外食して帰途に着く。

12月1日　木曜日　晴天　　菅原祐助

センターの1日は6時半の起床チャイムの音色で始まる。

4階のLL教室から眺める日の出は未開パラグアイのそれとは異なり、石油コンビナートの煙突の谷間から出る。けさも寒気に沈んだ静けさの中から昇り始めた。赤々と輝やく太陽を見つめていると、きのうの玉大生の第九が甦ってくる。きょうから師走、そして、この研修も終楽章に入った。

残りの日数をそして今年を人生を「歓喜に寄す」で終えたいものだ。

今日も日程通りの授業で無事終了

我々Ａコースの自主学習として前回に引き続き、各自の任地校の紹介と質疑応答、７時から始まり全員発表して９時過ぎに終了。

12月２日　　金曜日　　晴天　　　　　　　　　　　　　　　　　鈴 木 峯 子

今日も１日天気が良くて気持ちが良い。玉川での講義は10時40分からであるが、みんな早くセンターを出る。

10：40　小学部研修

６年の短歌の授業を見学する。生徒１人１人が良く短歌を言えるのでびっくりする。

玉川百人一首を研修生も入れていただいてやってみたが思うようにとれなかった。

３時限の石橋先生の講義が今日は礼拝堂で、ボン大学教授（アガイスラー氏）の講演を聴く。題は「科学技術と教育」であった。

４時限　本多先生の講義を変更して上原先生の「言葉と人間」の講義であった。

夜間の部　書道　19：30～21：00

今週は毎晩、夕食後も華、茶、書道や学校概要などの発表会があり、さすがに疲れるが。疲れた後研修生の仲間と卓球をしたりして汗を流すとすっきりする。

12月３日　　土曜日　　晴天　　　　　　　　　　　　　　　　　星　　ふじえ

昨日の天気予報では雲り空といってたが予想どうり晴になる

私が行く旅行はいつも晴……ついている。

９時15分ロービー集合（Ａ・Ｂコース全員）

根岸駅発９時24分、大船駅着９時44分、大船駅発９時54分チンチン電車に乗って北鎌倉着。江崎先生より、安田三郎先生をご紹介下さる。学者の様な方の案内に一同ホッとし鎌倉見学。円覚寺、三門では、天明３年（1783）に再建された列柱重層の唐様建築。むかしの人の知恵におどろく。

選仏場、方文、舎利殿、開基廟。黄梅院、途中もみじやいちょうが常緑樹にまじりあった。鎌倉ならではの日本秋を満喫した。

バスに乗り西鎌倉へ。

観音堂（木彫では日本で最も大きい金色の長谷の観音まいり）

大仏様のおだやかなお顔、ここで安田三郎先生とお別れ。

お人柄のにじみでた説明に一同心よりお礼を言う。

チンチン電車にゆられ鎌倉駅で一応解散、アー疲れた。

あとわずかな日数のため、精神的に落ちつかず疲れている様子。

でも頑張らなくては……あすは日曜日ねぼうが出来る

12月5日　月曜日　曇りのち晴　　山内和子

3回目の日誌、それも3度目の月曜日、そして3度目の長野先生の講義を記する。

重荷に感じていた日誌もこれが最後だと思うとうらさびしい気持。そのさびしさを表すかのような今朝の空。

午前中方先生の授業－休講→まえもってお願いしていたワープロ使用法を10時～11時、第1講義室にて、希望者5～6名に中村さんよりおしえていただく。

午後－13：25　少しおくれて、本多先生

腹話術 -59ページの発声練習

1人1人けんちゃん（人形）との対話。おもしろおかしく、つい声をだして笑ってしまうが、自分の番が近付くにしたがって、ほおがこわばる。最後の授業が近付いたので、本多先生熱心にすこしでも習得をと時間オーバー

14：50－ 201号室にて長野先生→授業設計

先週の宿題があったので皆なんとなくきんちょうぎみ授業を設計するということは→授業を工学的に考える。

なぜ　→生徒に効率的な物

3つのポイント　→①なにを

②どんな順序で

③どんな方法で

そして、その　－④評価

教師としての責任、そしてカリキュラム作成の大切さをつくづく感じさせられました。

12月6日　火曜日　センターにて　　小林文枝

10時　江崎さんよりの打合せ会、少々皆んな遅刻して10時10分から始まった。

皆んな帰りの準備で目がまわりそうで、時間のたつのも忘れていたのでしょう。

日程　13日　4時30分より帰国手続説明会

10日　レクリエーション　石井先生の授業

9時30分より～4時30分迄

準備品　はさみ、ものさし、ボールペン、色えんぴつ

2時限　斎藤先生　ビデオテープの免税について説明20分

模倣練習・描写練習の説明

3時限　斎藤先生　－次週火曜日はいろいろ説明会とする。

今日は文法について最後のまとめ。

コ、ソ、ア、ドと固定表現について

4時限　丸山先生　日本事情　歴史の総まとめ集

人心荒廃→現状として物質文明の発展により、人の心をくみとることの出来ない人間が多くなり、思いやり、学校サボリ、親子のキズナがない。

5時限　茶道　最後着物を着て1度でも出来たらどんなによかったか残念です。

毎回火曜日の日誌でしたこれも最後です。なれたころに終り、早い3ヵ月間でした。沢山の思いでの月日でした。二度と忘れることのない大切な日々でした。

12月7日　　水曜日　　晴天　玉川学園にて研修　　　　　　　　　　　　山　本　康　子

朝からポカポカとよい天気。すわれば居眠りしそう。

第1時限　幼稚部見学　本多先生

9：30～10：30　今日は集会は無し、クリスマスの準備をするから自由に見学して下さいとの事。それぞれ庭や教室を参観して歩く。この前の参観で一緒に遊戯をしたりょうちゃんと出会う。「あっ、この間のおばさんだ。」と言って近づいて来た。嬉しい。しばらくいっしょに遊ぶ。

園児達が教室に入った後、高橋部長先生が子供達のしまい忘れた遊具を片付けていらっしゃるのが目にとまる。

10時過ぎ本多先生のクラスで、研修生一同園児1人ひとりの仮親となって、だっこし、椅子取りゲーム、本多先生や助手の方？は常に園児に目をそそぎ乍ら指導されている。

第2時限　漢字論　金平先生

10：40～12：10　短歌を清書して出したものを又添削して下さった分について、説明していただく。これらはワープロ印刷し本にして下さるとのこと。

漢字論に入る。漢字辞典は引くものであるが、時には、最初から読んでみるのもおもしろい。そして子供達への教え方をさがしてみるのも一の方法だと教わる。

字体と書体について勉強

第3時限　短歌論　金平先生

13：30～14：30　漢字の教え方のサンプルになる問題のプリントをいただく。

短歌論　　218頁　短歌を作る人のための二十三章

219頁

俳句の心、俳句の作り方を教わる。

第４時限　折り紙　林先生

14：40～16：10　サンタクロース、クリスマスツリー、家を折る

林先生の折り紙作品数十点をくじ引きで各自頂く。

今日の授業は全て最後の授業であった。諸先生方ありがとうございました。

12月８日　木曜日　晴天　（センターにて）　青 木 敏 枝

第１時限　10時40分～12時　意味　林先生

前回の宿題。今日は晴れてよかった。

㋟の型の使い方。例文を使って説明するとわかりやすい。

形容詞Ｖ＋ての型　シク活用、ク活用の説明

語学は文法にこだわると技術面で定着しない。

最後の数時間、２、３質疑応答。

㋩と㋕、㋬と㋥の使い方等

わかりやすく説明していただいたので、楽しい授業時間を過す事が出来ました。

第２時限　１時～２時30分　音声　斎藤先生

聴解試験のプリント配布

テープを聞いて音声の問題をする。

音声のテープを希望する方はダビングするようにとの事。

第３時限　２時40分～４時20分　対照言語研究　石川先生

動詞の変化について

人称によって動詞が変わっていくということは日本語にはない。

１つの動詞がスペイン語では百個にも変化する。

英語で云う（８品詞・９品詞）

日本語とスペイン語での意味と言葉の違い等の説明有り。

第４時限　４時30分～６時　生花

お花の材料　つつじ・アイリス・百合　竹内先生

各自生けたものを先生になおしていただく。

自由に適当な場所に持って行って飾る。

お花を飾ってある部屋はなんとなく気持ちのよい感じがする。今日が最終日。名残りおしく先生とお別れの言葉を交わす。

残り少ない研修日を有意義に過ごしましょう。

12月９日　　金曜日　　うす曇　（玉川大学）　　　　　　　　　　　　　田野辺　悦　子

第２時限目10時40分～11時30分まで玉川学園小学部５年楓組の音楽の授業参観

担当小宮路先生

北川もりお君のフルート独奏さくらさくら、荒城の月、そしてアンコールで川は呼んでいるを吹奏する。全員の「こんにちは、みなさん」の歌でむかえられ、小宮路先生はすべて歌でふしをつけてお話しをなさる。又１人１人の発表が終わると手を叩き誉め言葉をかけていた。「聖者が町にやって来る」これなどは原語（英語）で歌わせていたのが印象的でした。研修生は風邪を引いたり、体調を崩したり、その他の用件で５名の欠席でした。

第３時限目１時より２時30分石橋先生の全人教育。全人教育論も大詰めに入り、教師は水車であれと、そして又、進みつつある教師のみ人を教うる権利ありと、労作をせよと、労作とは自分の体を使い創作することであること、子供と共に育つ教師たれと結んで終講となり、少しの時間を質疑応答にとりました。

第４時限目２時40分～４時20分　幼稚部の本多先生によるお話しとレクリエーション的なもの。

夜７時30分より習字

最終授業笹本先生より直筆の色紙を各自いただく。又先生からのおいしいおせんべいと、浜かもめ小ぐらの甘い物と冷えた飲物を御馳走になりながら、１人１人簡単な自己紹介をし、一同写真をとり終了となった。いろいろ本当にありがとうございました。

12月10日　　土曜日　　うす曇　センターにて　　　　　　　　　　　　　池　田　洋　子

レクリエーション指導　講師　石井和夫先生

９時30分から４時30分までの予定で石井和夫先生からレクリエーション指導をセンターで受ける。

講義内容

1　レクリエーションの目標の解説　９：30～11：00

・教育も科学する　　　　　　　　　　　００

・自閉症と社会との関係

・あそびの科学　その他

2　社会教育　11：00～12：00

・学級経営（生徒と教師のコミュニケーション）

・レクリエーション指導

①足踏み②椅子掛けゲーム③ねずみとり　その他

3　レクリエーションソング（楽しく歌せるために）１：00～２：00

①ホルデイリア・クック②山への祈り③四季の歌④もみじ⑤里の秋⑥雁⑦ T.I.R.O　その他

4　折り紙　２：00～３：30

・7変化帽子　クリスマス・ツリー

・数あそび（九去法）

・言葉あそび

5　まとめ

・数あそび、手じな、教材配布、キャンピング便利帳の説明

お別れの歌

・課外活動の必要性の説明

所感

レクリエーションの必要性の講義を受けまして、私達がいつも悩んでいる学級経営、とくに生徒と先生のコミュニケーションをいかにスムーズ運ぶか、これに対しての石井先生は"授業以前に問題がある。授業に入る前に十分に生徒と先生の信頼関係を作っておかねばならない"と言われました。今回の研究の中に学級経営に対する講義があまりなかったので残念でしたが、最後に良い講義が受けられたのでうれしかった。これからは学級経営に関する科目を、研修の中に多く入れてほしいと思います。

以　上

12月12日　　月曜日　晴れ　　（玉川学園）　　丸　岡　すみ子

研修生活最後の1週間となりました。

1、2時間目　表現教育（方先生）

①軽く体をほぐした後、朗読劇について教えて頂く。

マインドシアターあるいはイメージシアターともいい

①身体にハンディーキャップのある人のために、また
②バイリンガル教育の方法として

開発されてきたとのこと。

オフステージフォーカスという表現効果を主に用いる。

②文学部芸術学科児童専修の女子学生達による朗読劇の観賞

「だってだってのおばあちゃん」

「ジャックと豆の木と大男の話」

③4人ずつのグループに分かれて朗読劇「キツネとカラス」の練習及び発表

④まとめ

自己表現について

言葉の教育の観点について

※朗読劇の台本を頂く

3時間目　腹話術実習（本多先生）

①発声練習　1．全体　2．列ごと　3．個人

②人形を使っての演技　（先週していなかった人）

4時間目　日本語文化論（長野先生）

※先週提出された学習指導案の中から、詳しく書けている例として横山さんと若林さんの学習案のコピーが配布された。

①学習活動の行動化
②　〃　個別化

①についていかに子どもの興味、関心を引きつけ学習に対する内発的動機づけをはかるかということで、ゲームや歌で日本語の指導に使えそうな、教育的効果のあるものを活用してはどうかということ。②について個人差、指導形態と授業の流れについて講義があった。

所感

長野先生のお話の中で行動、体験を通して学習したものは後々まで印象に残るというお話があったが、実に成程と思う。方先生の表現教育の授業、特に今日実際に行ってみた朗読劇などは、生涯忘れられない体験ではないだろうか。表情豊かな玉大生の劇は勿論のこと。研修生の国際色豊かな、あるいは方言混じりのローカル色のある劇、歌舞伎調の劇等皆大変楽しく面白かった。また、腹話術の「ケンちゃん」とももうお別れだと思うと一抹の淋しさが心に湧いてくる。

先生方の熱心な御指導を通して学び、掴み得たものを現地にもどってから最大限有効に生かせたらと思う。

12月13日　火曜日　くもり　立石礼子

今日はセンター最後の授業

10時より江崎さんからの連絡、説明がありました。

研修総括報告について

研修評価アンケートの書き方

64年度の本部研修期間予定

4時半よりツニブラトラベルのエージェントが見えるなど

研修も終わりに近づき寒さもきびしく、気がゆるんだと見え体調をくずして休む人が出はじめた。

最後の授業くらい皆いっしょに受けたいもの、でも日本の「カゼ」はとてもひどいねつがあり腰も痛い。

斎藤先生　1時間目

日本語教育とはどんなものか、今まで教えて来たことについて

言語は話すためにあったのか、書くためにあったのか

母国語　斎藤先生が母語という言語を使う理由。

２時間目

理解することと実行するということはちがう。

研修生達の来年度への計画を話しあう。（センターでの科目をふやす）

外国語学校見学も必要だと思う

丸山先生

現在の社会現象

日本人の平均寿命

日本の教育

「韓国人が見た日本」を紹介して下さる。（弁論大会のテープ）

最後に日本人についてお話しして終りたかったそうですけど、時間がなくて残念でした。

５時にツニブラの中内さんが見えて帰りの便のことを説明して下さる。皆疲れた顔している。もう３日ガンバレ

12月14日　水曜日　晴　　　　渋谷紀子

玉川通い最後の日。例の如く三々五々？盛装して時間までに全員集合。

午後１時30分　406にて長野先生最後の授業「文法指導について」

続いて朔風館食堂に於いて

修了式

出席者　玉川大学国際教育学部　小原室長　他

長野先生　金平先生　林先生

事業団本部より　鵜飼職員

〃　センターより　松田課長

江崎職員

A、Bコース全員

長野先生の司会で始まり、小原室長より全員に祝辞をいただく。生涯学べ、労作等全人教育の精神を今一度お話くださいました。全員立派な修了証書と記念品をいただく。シンボルマークについての説明もありました。生徒を代表して金居団長の答辞。もう少しで室長側に背を向けての答辞になるところでした。（ハプニング）

玉川大学のご行為によるこん親会、金平先生の「カンパイ」でなごやかにはじまる。先生を囲み、写真を撮りあったりお話にハナさいたり etc. 会なかばに小原学長はお忙しい中を、我々のために時間をさいて出席下さいました。祝辞をいただき、全員文二校舎前で学長とご一緒の記念写真を撮る。全員なごやかに笑顔で修了式終了。忘れ得ぬ３ヵ月の玉川通い。いちょう並木に紅葉、かわい

らしい園児達、小学校の音楽の教室 etc.
ありがとうございました。感謝あるのみ。

12月15日　木曜日　はれ　塩屋アンヘリア
各自研修レポート作成後
自由行動

12月16日　金曜日　晴　金　居　美知男
※2時半より、江崎さんのオリエンテーション
　本日最後の答礼、今日これからの予定の連絡事項の紹介
※3時から移住センターの職員及び本部課長、講師の先生（斎藤）Bコースの人達を含め個人の発表会、内容等は来日にあたる前の所感と来日後の研修結果ならびに、これからの要望等を聞いていただいた。その後、丸山先生の所感、本部課長の所感を聞き閉会。
※5時25分から講堂で終了式
昭和63年度現地日本語教師本邦研修生Aコース
　閉講式次方

1、開会の辞	江崎様
1、修了証書授与	①所長により修了証書の授与
1、祝辞	①所長（人という字について）
1、来賓祝辞	・長野先生
1、研修生代表謝辞	金居
1、閉会の辞	江崎様　6時終了

以上

6時5分　懇親会
　ＪＩＣＡ職員及び諸先生、Ｂコースの皆様。

研　修　日　誌

Bコース（1年コース）

4月12日　火曜日　晴　　井上明楽

ブラジリアから発って28時間40分後、成田空港にＰＭ00：40に着く。疲れた。空港で初めて江崎さん（とうちゃん）に会った。成田から移住センターまで約２時間かかった。

着くと、18回と17回の移住者子弟研修生に荷物を運ぶのを手伝ってもらった。すぐあと、ロビーで、初めてのオリエンテーションがあった。その後、部屋に荷物を入れて整理。やっぱり日本は肩が凝る。

ふろに入り、食堂に向かい、初めて日本で食事をした。おいしかったが、物足りなかった。そのあと部屋に戻り、休んだ。

4月13日　水曜日　　丸岡義彦

午前10時から午後４時30分まで、日本語教師本邦研修生Ｂコース研修日程説明が行われました。先生方、又江崎さんなどの詳しい説明がありました。まず、この研修の目的、方針、区分などが分かるようになりました。

午後５時30分に入所式が始まりました。その時に国際協力事業団海外移住センターの所長からあいさつがありました。６時に懇親会をしていただきました。そして、丸山先生が“かんぱい”をあげました。

4月14日　木曜日　晴　　出合美樹

午前８時、自由時間を利用して、根岸森林公園へ、18回子弟研修生当山ニコラスの案内で、散歩へ行く事ができた。全員にとって、公園に着くまで、すべて新しい物ばかりで感動の連続であった。出発した時は、あまり天気がよくなく少し霧につつまれていたので、さくらの花やつばき、チューリップ、すいせんなどがお化粧しているかのように美しく見えた。とってもすてきな春を見る事ができた。帰りに何人か郵便局に初めて行き、一騒動して来た。

午前10時20分から、私達の主任斎藤明講師から、今後の研修について全面的なオリエンテーションをしていただいた。

午後からは、各研修生によるカントリーレポートの発表があった。内容は、自分や家族、住んでいた所について、又は、日本においての知識、イメージなどであった。このカントリーレポートは坂根先生に進行していただいた。

14時40分からは、ＪＩＣＡ所長による国際協力事業団について、分かりやすくていねいな講話を聞かせていただいた。

夜は、江崎さんから皆に、１台ずつワープロをくばられた。ワープロを手にさげ、うれしそうに皆３階へ上った。（この夜ワープロをだいてねむった研修生もいたかも知れません。）

４月15日　金曜日　晴　　若林広美リンダ

国際協力事業団の新入社員が海外移住センターにいらっしゃって、皆楽しく昼食パーティーをした。その後、新宿にあるＪＩＣＡ本部を訪問した。ＪＩＣＡ本部と三井ビルの４５階にあった。そこで次のような内容で歓迎された。

１．歓迎のあいさつ（移住事業部長）

２．本部職員の紹介

３．研修生自己紹介

４．映画「ＪＩＣＡ24時間」

５．移住事業部見学

その後、江崎さんは先に帰り、皆は新宿駅へ残っていろいろな店を見て歩いて、自分達で寮へ帰った。道に迷うか心配していたが、無事に皆寮へ帰り着くことができた。

４月16日　土曜日　晴　　小田希美

午前10時20分長野先生が玉川大学教科課程について説明をする。

★内容

１．前期、後期、通年学科がある。

２．１時間授業が90分である。

３．選択学科について分かりやすく説明する。

４．短期大学と長期大学の学科がある。

学科を選択し、服装などについて質問をする。

午後は、先輩の真弓さんと横浜までショッピングに行く。洋服のサイズの小さいのにびっくり。

夜は、校長先生に手紙を書く。

明日は、埼玉のおばさんが来るので楽しみです。

４月18日　月曜日　　山内光子

今日は朝10時30分にみんなで玉川学園へ出かけました。

根岸から町田まで約１時間です。町田で食事して、１時30分に集合して玉川まで行きました。とても大きな大学で坂をずーとのぼって行きます。少しはやせるかな?!　帰りは自由行動でしたので、みんなグループになってデパートなどを見ていました。

今日、団長さんと副団長を決めました。団長は井上君で副団長は私です。私はわりとルーズな所があるので、やりたくないのですが、このさいその悪い所をなおすつもりでやってみたいと思います。でも副団長てガラじゃないから、みんなにたすけてもらって行きたいと思います。よろしく。

4月19日　火曜日　晴　　　　関口ナツコ

初の登校日なので期待と不安が背中合わせで、胸がワクワク・ドキドキします。

1時限目は、徳座先生の国語の授業でした。玉川学園の生徒たちにとっても初の授業だったので、学習する内容と教材の説明がありました。短大なのでもちろん女子ばかりとはいえ、ブラジルでは共学に通っていた私にはなんとも不思議な気分です。

2時限目は益井先生の幼児教育学で、家族の機能について勉強しました。幼児教育は思春期後に深くかかわりがあるのでそうで、私もそういうことを配慮しなければ、と考えさせられました。

3時限目は平山先生がお休みだったので学園を少し見て回り、4時頃帰りました。

早く玉川の生徒たちと仲良くなりたいので、がんばります!!

4月20日　水曜日　　　　宮脇郁代

暖かい春の日でした。

午前9時50分に講義室に集合し、江崎さんからの指令がありました。30分すぎて斎藤先生の文献講読の授業が始まりました。初めに辞典2冊、新書2冊と文庫本1冊を皆がもらいました。授業の内容は母語、公用語、母国語でした。

午後1時30分に吉岡先生の視聴覚教材研究の初授業でした。初め先生が自己紹介をしました。つづきに研修生の自己紹介をしました。2時間目は講師控室で“ヤンさんと日本の人々”というビデオの第1話を見ながら復習しました。そして2冊教師用指導書をもらいました。

午後4時30分、研修で知識だけでなく、健康な体にするため体育の時間があり、井口先生に担当してもらいました。最初に体力のテスト（垂直とび、背筋力、その他）をしました。

午後7時30分、日本の伝統として茶道の意味、やり方などについて石井先生が教えてくださいました。自分で実際にするとめずらしかった。でも、日本式にすわると足がしびれるから早くなれたい。

4月21日　木曜日　　　　葛西順子ルシア

今日は、いつもより早い朝が始まりました。じつは、総裁が当センターを視察のため、来所されるので、部屋の清掃をしなければならなかったからです。（でも直美さんと、もう前から、今日掃除することになっていました。）

9時45分、総裁が来られなくなったというお知らせを江崎さんがつたえてくれました。風邪をひかれたそうです。どうぞお大事に。

今日、一日中、坂根先生の授業でした。

10時20分には文字のオリエンテーション、日本の文字について、どういうものがあるのか考えさせられました。

皆、漢字が一番むずかしいとか、わからない、不安、おぼえなければいけないということに一致しましたが、先生が三つの文を黒板に書いたとたん、漢字は必要で、読む時、「漢字かなまじり文」の方がわかりやすいことが目に見えました。

坂根先生が書かれたのは、

A　はははははわるいが…

B　はは　は　はは　わるいが…

C　母は　歯は悪いが、目はいい。でした。

13時の表記の授業は教材の使い方でした。

「よく使われる新聞の漢字と熟語」という本を頂き、皆でまえがきを読み、普通の日本人は、1秒に15字読めることとか、常用漢字は1945字とか、教育漢字は 996字とかわかりました。いろんな問題集ももらいました。家でするようにと先生がおっしゃいました。でも宿題ではありません。（漢字だけはしっかり週に5ページにおぼえることだけ。）

14時40分には所外研修の報告書の書き方や、東京についての話を聞かせて頂きました。

坂根先生は漢字の大切さをよく私達に理解させ、どうしても勉強して、おぼえなければならないことをすごく上手に、やさしく納得させてくれたと思いました。私も生徒に漢字を教える時には、同じような手段を使おうと思っています。

4月22日　　金曜日　　　　　　　　　　　　　　　木　村　直　美

今日9時45分に集合しなくてもよかったので、10時頃までは自由時間でした。

10時20分からは、斎藤先生の音声の授業で、日本語のアクセントについてくわしく説明がありました。

日本語のアクセントは三つに分類している。それは、

・○｜○○　1番目の音節が高いとき

・○｜○｜○2番目の音節が高いとき

・○｜○○　2番目と3番目の音節が高いときです。

午後の部は1時20分から文法の授業が行われ、先生は井口先生で、今日初めてでした。文法の勉強について、オリエンテーションや、これから使う教材を紹介された。

2時40分から4時半までは、次の音楽の授業を楽しみにして待っていると、江崎さんから呼びだされ、みんななにかと思いながら講師控室へ行くと、一人一人にピアニカと笛を配られた。みんなは、「思いもしなかった物をもらって」と言いながら、にこにこと、音楽の授業に行きました。先生は奥田先生で、又、とっても楽しく、解り易く、音符の読み方と、種類などを教えられた。

夜は課外講座として書道を笹本先生と池田先生から教わった。初めての書道なのでとっても緊張